

(様式第 10)

番 455 号  
令和 2 年 10 月 22 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 塚本 泰司 (印)

札幌医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目
氏 名	北海道公立大学法人札幌医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

札幌医科大学附属病院
------------

3 所在の場所

〒060-8543	電話(011) 611-2111
札幌市中央区南1条西16丁目291番地	

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無		
内科と組み合わせた診療科名等			
1呼吸器内科	2消化器内科	3循環器内科	4腎臓内科
5神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科	
診療実績			
脳神経内科			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無		
外科と組み合わせた診療科名			
1呼吸器外科	2消化器外科	3乳腺外科	4心臓外科
5血管外科	6心臓血管外科	7内分泌外科	8小児外科
診療実績			

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科	2小児科	3整形外科	4脳神経外科	5皮膚科	6泌尿器科	7産婦人科
8産科	9婦人科	10眼科	11耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	15麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無		
歯科と組み合わせた診療科名			
1小児歯科	2矯正歯科	3口腔外科	
診療体制			

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1循環器科	2形成外科	3リハビリテーション科	4病理診断科	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
42床	床	床	床	890床	932床

## 6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	258人	301人	485.8人	看護補助者	76人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	7人	23人	27.0人	理学療法士	35人	臨床検査技師	7人
薬 剤 師	55人	4人	57.5人	作業療法士	10人	衛生検査技師	55人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	4人	その他	0人
助産師	34人	3人	36.2人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	741人	33人	764.9人	臨床工学士	20人	医療社会事業従事者	0人
准看護師	0人	2人	1.5人	栄 養 士	0人	その他の技術員	6人
歯科衛生士	4人	2人	6人	歯科技工士	2人	事務職員	92人
管理栄養士	7人	1人	8人	診療放射線技師	52人	その他の職員	39人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

## 7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	53人	眼科専門医	7人
外科専門医	33人	耳鼻咽喉科専門医	8人
精神科専門医	5人	放射線科専門医	15人
小児科専門医	22人	脳神経外科専門医	15人
皮膚科専門医	13人	整形外科専門医	17人
泌尿器科専門医	12人	麻酔科専門医	23人
産婦人科専門医	18人	救急科専門医	17人
		合 計	278人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

## 8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 土橋 和文 ) 任命年月日 平成30年4月1日

平成26年4月1日～平成27年3月31日	医療安全部推進部長
平成27年4月1日～平成30年3月31日	医療安全部長
平成26年4月1日～平成30年3月31日	医療事故防止対策委員会委員長
平成28年10月1日～平成30年3月31日	医療安全管理責任者
平成30年4月1日～現在	医療クオリティ審議委員会委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	630.6人	19.5人	650.1人
1日当たり平均外来患者数	1621.3人	98.2人	1719.5人
1日当たり平均調剤数	1264.0剤		
必要医師数	159.90人		
必要歯科医師数	8.0人		
必要薬剤師数	22.0人		
必要(准)看護師数	384.0人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	433.8 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	6床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	147.96m <sup>2</sup> 台	病床数	床	
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床積 共用する室名	204.9m <sup>2</sup>			
化学検査室	165.0m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 純粋精製装置 生化学全自動分析装置 多項目免疫化学分析装置 吸光度測定装置 遠心装置 保冷庫 冷凍庫など			
細菌検査室	50.4m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) 全自動細菌同定感受性装置 細菌培養装置 顕微鏡 自動血液培養装置 自動抗酸菌培養装置 安全キャビネット クリーンベンチ 遠心装置 冷蔵庫 冷凍庫、陰圧装置など			
病理検査室	185.7m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) 自動染色装置 包埋装置 顕微鏡 ミクロトーム 安全キャビネット ホルマリン分解装置 写真撮影装置 冷蔵庫 冷凍庫など			
病理解剖室	52.3m <sup>2</sup>	〃	(主な設備) 解剖台 ホルマリン分解装置 写真撮影装置 冷蔵庫など			
研究室	1006.8m <sup>2</sup>	〃	(主な設備)			
講義室	619.8m <sup>2</sup>	〃	室数	室	収容定員	人
図書室	2312.1m <sup>2</sup>	〃	室数	室	蔵書数	冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	79.0%	逆紹介率	64.4%
算出根拠	A: 紹介患者の数		15,273人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		12,752人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		368人
	D: 初診の患者の数		19,806人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
橋場 弘之	田村・橋場法律事務所	○	法律に関する識見を有するもの	無	1
南須原 康行	北海道大学附属病院		医療に関する安全管理に関する識見をもつもの	無	1
高田 久	北海道信用保証協会		医療を受ける立場から意見を述べる事ができるもの	無	2
元村 啓司	元 トーアエイヨー(株)		医療を受ける立場から意見を述べる事ができるもの	無	2
小林 宣道	札幌医科大学		学内委員	有	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法 札幌医科大学附属病院 HP で公開	



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	0人
S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。



(様式第2)

療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	56	ベーチェット病	65
2	筋萎縮性側索硬化症	24	57	特発性拡張型心筋症	56
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	26
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	10	60	再生不良性貧血	25
6	パーキンソン病	113	61	自己免疫性溶血性貧血	5
7	大脳皮質基底核変性症	4	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	
8	ハンチントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	43
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トウス病	3	65	原発性免疫不全症候群	6
11	重症筋無力症	132	66	IgA腎症	9
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	17
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	94	68	黄色靱帯骨化症	8
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	11	69	後縦靱帯骨化症	52
15	封入体筋炎	4	70	広範脊柱管狭窄症	2
16	クドウ・深瀬症候群	3	71	特発性大腿骨頭壊死症	54
17	多系統萎縮症	11	72	下垂体性ADH分泌異常症	8
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	36	73	下垂体性TSH分泌亢進症	2
19	ライソゾーム病	3	74	下垂体性PRL分泌亢進症	4
20	副腎白質ジストロフィー		75	クッシング病	1
21	ミトコンドリア病	6	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	29	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	9
23	プリオン病		78	下垂体前葉機能低下症	47
24	亜急性硬化性全脳炎	1	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	46	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	65
30	遠位型ミオパチー	4	85	特発性間質性肺炎	95
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	34
32	自己食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンペル症候群		88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	18
34	神経線維腫症	21	89	リンパ管筋腫症	5
35	天疱瘡	28	90	網膜色素変性症	18
36	表皮水疱症	3	91	バッド・キアリ症候群	
37	膿疱性乾癬(汎発型)	8	92	特発性門脈圧亢進症	3
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	3	93	原発性胆汁性肝硬変	48
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	5
40	高安動脈炎	31	95	自己免疫性肝炎	34
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	68
42	結節性多発動脈炎	12	97	潰瘍性大腸炎	105
43	顕微鏡的多発血管炎	22	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	9	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	11	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	3	101	腸管神経節細胞減少症	
47	パージャール病	6	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群		103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	173	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	70	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	86	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	39	107	全身型若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	384	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	11	109	非典型溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	2	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー		161	家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	12
113	筋ジストロフィー	15	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮膚白皮症	1
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1	165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症		167	マルファン症候群	9
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	4
119	アイザックス症候群		169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア	1	170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症		174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	
128	ピッカーstaff脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	1
130	先天性無痛無汗症		180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ピクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリズ症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	
140	ドラベ症候群		190	鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠神てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	プラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群	4	194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンブソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎	1	201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1	203	22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症	7	208	修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症	3	209	完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬		210	単心室症	

(様式第2)

療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症	2	263	脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症		264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群		266	家族性地中海熱	7
219	ギャロウェイ・モフト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎		268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	6	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	6
224	紫斑病性腎炎	1	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	4	274	骨形成不全症	
227	オスラー病	3	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	4	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	4
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンコニ貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	1
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	2
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メープルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膝炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	20
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシャー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	24

(様式第2)

療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナパン病		319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌスてんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	
			331	特発性多中心性キャスルマン病	2
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料 ※一般:7対1	・ハイリスク分娩管理加算
・特定機能病院入院基本料 ※精神:13対1	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・臨床研修病院入院診療加算※基幹型(医科)	・呼吸ケアチーム加算
・臨床研修病院入院診療加算※単独又は管理(歯科)	・後発医薬品使用体制加算2
・救急医療管理加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・超急性期脳卒中加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・妊産婦緊急搬送入院加算	・データ提出加算1
・診療録管理体制加算2	・データ提出加算2
・医師事務作業補助体制加算 25対1	・入退院支援加算2
・急性期看護補助体制加算 50対1	・認知症ケア加算3(認知症ケア加算2を引き続き算定する場合)
・看護職員夜間配置加算1 12対1	・精神疾患診療体制加算
・療養環境加算	・精神科急性期医師配置加算2のイ
・重症者等療養環境特別加算	・排尿自立支援加算
・無菌治療室管理加算1	・救命救急入院料1
・無菌治療室管理加算2	・救命救急入院料4
・緩和ケア診療加算	・特定集中治療室管理料1
・精神科身体合併症管理加算	・特定集中治療室管理料の注4に掲げる早期離床・リハビリテーション加算
・精神科リエゾンチーム加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・がん診療連携拠点病院加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・栄養サポートチーム加算	・小児入院医療管理料2、注2加算
・医療安全対策加算1	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・感染防止対策加算1・感染防止対策地域連携加算	・歯科外来診療環境体制加算2
・感染防止対策加算の注3に掲げる抗菌薬適正使用支援加算	・歯科診療特別対応連携加算
・患者サポート体制充実加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料の注2	・骨髄微小残存病変量測定
・心臓ペースメーカー指導管理料・植込型除細動器移行期加算	・BRCA1/2遺伝子検査(腫瘍細胞を検体とするもの/血液を検体とするもの)
・心臓ペースメーカー指導管理料・遠隔モニタリング加算	・がんゲノムプロファイリング検査
・高度難聴指導管理料	・先天性代謝異常症検査
・外来リハビリテーション診療料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・外来放射線照射診療料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・糖尿病合併症管理料	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・がん性疼痛緩和指導管理料1,2	・遺伝カウンセリング加算
・がん患者指導管理料1	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・がん患者指導管理料2	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡加算
・がん患者指導管理料3	・植込型心電図検査
・がん患者指導管理料二	・胎児心エコー法
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・時間内歩行試験
・糖尿病透析予防指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・小児運動器疾患指導管理料	・人工臓器検査
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・皮下連続式グルコース測定
・婦人科特定疾患治療管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	・長期脳波ビデオ同時記録検査1
・がん治療連携計画策定料1,2	・脳波検査判断料1
・がん治療連携管理料	・遠隔脳派診断

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・肝炎インターフェロン治療計画料	・単線維筋電図
・外来排尿自立指導料	・神経学的検査
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・補聴器適合検査
・薬剤管理指導料	・小児食物アレルギー負荷検査
・医療機器安全管理料1	・内服・点滴誘発試験
・医療機器安全管理料2	・センチネルリンパ節生検1併用法
・精神科退院時共同指導料2	・CT透視下気管支鏡検査加算
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・経気管支凍結生検法
・持続血糖測定器加算	・画像診断管理加算2(医科のみ、歯科はなし)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・遠隔画像診断
・造血器腫瘍遺伝子検査	・ポジトロン断層撮影・コンピューター断層複合撮影
・遺伝学的検査	・CT撮影及びMRI撮影
・冠動脈CT撮影加算	・医科点数表第2章第10節手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・大腸CT撮影加算	・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・心臓MRI撮影加算	・皮膚移植術(死体)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・組織拡張器による再建手術(乳房の場合)
・外来化学療法加算1	・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
・無菌製剤処理料	・骨移植術(同種骨移植(非生体)(特殊なもの)
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・骨移植術(自家培養軟骨移植術)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・内視鏡下椎弓切除術、内視鏡下椎間板摘出(切除)術(後方切除に限る。)
・運動器リハビリテーション料(I)	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・椎間板内酵素注入療法

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・がん患者リハビリテーション料	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・リンパ浮腫複合的治療料	・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
・救急患者精神科継続支援料	・脳刺激装置植込術、頭蓋内電極植込術、脳刺激装置交換術
・治療抵抗性統合失調症治療指導管理料	・脊髄刺激装置植込術、脊髄刺激装置交換術
・医療保護入院等診療料	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・硬膜外自家血注入	・緑内障手術(インプラント挿入術プレートのあるもの)
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)	・人工中耳植込術
・導入期加算1	・人工内耳埋込術・人工中耳用材料
・透析液水質確保加算	・植込型骨導補聴器移植術及び交換術
・下肢抹消動脈疾患指導管理加算	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・慢性維持透析濾過加算	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・人工膵臓療法	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・一酸化窒素吸入法	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術
・内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術	・ペースメーカー移植術 リードレスペースメーカーの場合
・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	・埋込型心電図記録計移植術及び埋込型心電図記録計摘出術
・内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極)、両心室ペースメーカー交換術(心筋電極)
・乳房切除術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極)、両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術)	・植込型除細動器移植術(心筋リード)、植込型除細動器交換術(心筋リード)
・乳がんセンチネルリンパ節加算1(併用法)	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・両室ペーシング機能付き埋込型除細動器移植術(心筋電極)及び両室ペーシング機能付き埋込型除細動器交換術(心筋電極)
・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・両室ペーシング機能付き埋込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き埋込型除細動器交換術



6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)(18歳未満除く)
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・補助人工心臓
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・経皮的下肢動脈形成術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・経皮的大動脈遮断術
・食道縫合術(穿孔、損傷) (内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・経皮的冠動脈形成術	・ダメージコントロール手術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術
・経皮的冠動脈ステント留置術	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・胸腔鏡下弁形成術	・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経カテーテル大動脈弁置換術	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下弁置換術	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・経皮的僧帽弁クリップ術	・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経皮的カテーテル心筋焼灼術(磁気ナビゲーション加算)	・胃瘻造設術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下肝切除術	・会陰形成手術(筋層に及ばないもの)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・生体部分肝移植術	・膣腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・造膣術、膣閉鎖症術(遊離植皮によるもの、腸管形成によるもの、筋皮弁移植によるもの)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	・子宮全摘出術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術	・腹腔鏡下膣式子宮全摘術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・腹腔鏡下陰式子宮全摘術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
・結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・子宮附属器腫瘍摘出術(両側)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)
・腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対して行うものに限る。)
・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・同種死体腎移植術	・無心体双胎焼灼術
・生体腎移植術	・胎児輸血術
・尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・輸血管管理料 I
・膀胱水圧拡張術	・輸血管管理料 I・輸血適正使用加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・コーディネート体制充実加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・自己生体組織接着剤作成術
・膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・同種クリオプレシピテート作製術
・尿道形成術(前部尿道)(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・尿道下裂形成手術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・内視鏡手術用支援機器加算
・陰形形成術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・人工尿道括約筋植込・置換術	・レーザー機器加算
・陰形全摘術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・麻酔管理料 I
・精巣摘出術(性同一性障害の患者に対して行う場合に限る。)	・麻酔管理料 II
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・放射線治療専任加算
・外来放射線治療加算	

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高エネルギー放射線治療	
・一回線量増加加算 全乳房照射	
・強度変調放射線治療(IMRT)	
・画像誘導放射線治療加算	
・体外照射呼吸性移動対策加算	
・一回線量増加加算 前立腺照射	
・直線加速器による定位放射線治療	
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
・密封小線源治療の注8に掲げる画像誘導密封小線源治療加算	
・病理診断管理加算2	
・歯科治療総合医療管理料	
・歯科口腔リハビリテーション2	
・口腔粘膜処置(1口腔につき)	
・レーザー機器加算	
・上顎骨形成術、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合)(歯科)	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術(1顎一連につき)	
・クラウン・ブリッジ維持管理料	
・CAD/CAM冠	
・歯科技工加算1及び2	
・歯科矯正診断料	
・顎口腔機能診断料	
・入院時食事療養/生活療養(I)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	・
・S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	CPC 5回/年 キヤンサーボード 1回/年 カンファレンス 34回/年
剖検の状況	剖検症例数 21例 / 剖検率 11.9 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
細胞の糖代謝特性を利用した新規大腸癌治療法の開発	加藤 淳二	腫瘍内科学講座	3,000,000	補委 日本学術振興会
エピゲノム制御に基づく炎症性腸疾患個別化医療の開発	仲瀬 裕志	消化器内科学講座	3,900,000	補委 日本学術振興会
美白化合物のメラノーマ細胞障害作用を利用した新規メラノーマ治療薬の開発	黄倉 真恵	皮膚科学講座	540,000	補委 日本学術振興会
硫化水素の中樞神経系中毒機序と脳保護作用の解明	成松 英智	救急医学講座	600,000	補委 日本学術振興会
心停止後症候群患者に対する脳波解析	宮田 圭	救急医学講座	300,000	補委 日本学術振興会
脳梗塞に対する骨髄幹細胞とリハビリ併用による脳と脊髄のplasticityの解析	佐々木 雄一	リハビリテーション医学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会
オリゴデンドロサイト変性過程に関与するマイクロRNAの解析	久原 真	神経内科学講座	500,000	補委 日本学術振興会
中等度嘔吐性リスク化学療法時各種メディエーターとCINVの発現に関する研究	沖田 憲司	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	1,000,000	補委 日本学術振興会
ソラフェニブ治療抵抗性肝細胞癌におけるHIF1- $\alpha$ の役割	阿久津 典之	消化器内科学講座	1,200,000	補委 日本学術振興会
AMPデアミナーゼ活性修飾による糖尿病性心筋症に対する新規治療法の開発	丹野 雅也	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会
血管内皮傷害における異所発現型脂肪酸結合タンパク4の役割解明と臨床応用	古橋 真人	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	900,000	補委 日本学術振興会
ニンテダニブが肺サーファクタント蛋白質発現へ与える影響	大塚 満雄	呼吸器・アレルギー内科学講座	1,000,000	補委 日本学術振興会
TLR制御分子としての肺サーファクタントおよびHSP47抑制による肺線維化治療	高橋 弘毅	呼吸器・アレルギー内科学講座	900,000	補委 日本学術振興会
パーキンソン病における脳内-血液免疫系細胞間のクロストーク開始起点と病態への関与	鈴木 秀一郎	神経内科学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会
回復しないうつ病への新治療戦略:末梢-中枢双方向からの神経新生促進と神経回路調整	橋本 恵理	神経精神医学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会
DAT-SPECTを用いたレビー小体型認知症の症状発現の解明および新たな治療応用	小林 清樹	神経精神医学講座	700,000	補委 日本学術振興会
メタボロミクス解析を用いた大腸癌末梢血スクリーニングの早期診断の検討	竹政 伊知朗	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	800,000	補委 日本学術振興会
悪性神経腫瘍に対する浸潤能の分子メカニズムの解明と制御による革新的治療法の開発	鰐淵 昌彦	脳神経外科学講座	1,000,000	補委 日本学術振興会
脳梗塞に対する骨髄幹細胞移植による脳のplasticity亢進による神経機能回復	鈴木 淳平	フロンティア医学研究所神経再生医療学部門	1,100,000	補委 日本学術振興会
慢性期脊損に対する骨髄幹細胞移植によるplasticity賦活化による機能回復	森田 智慶	整形外科科学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会
軟部肉腫に対するCD109を標的とした臨床応用	江森 誠人	整形外科科学講座	100,000	補委 日本学術振興会
内皮グリコカリックスの障害に対する麻酔薬による保護作用の検討	時永 泰行	麻酔科学講座	900,000	補委 日本学術振興会
吸入麻酔薬による心筋保護作用に対してナチュラルキラー細胞及び免疫応答が及ぼす影響	平田 直之	麻酔科学講座	200,000	補委 日本学術振興会
前立腺がん微小環境制御による新規治療法の開発	橋本 浩平	泌尿器科学講座	900,000	補委 日本学術振興会
臓器移植後移植片拒絶反応におけるHSP90の役割の解明および新規治療の開発	田中 俊明	泌尿器科学講座	900,000	補委 日本学術振興会
子宮頸癌幹細胞をターゲットとした新規ペプチドワクチンの開発	斉藤 豪	産婦人科学講座	1,200,000	補委 日本学術振興会
遊離脂肪酸の病原細菌への効果の解明と熱傷局所療法への応用の研究	上村 修二	救急医学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会
ラット低体温モデルを用いた高度低体温の膝傷害と軽度低体温の膝保護効果の機序解明	井上 弘行	救急医学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会
難治性うつ病の新規治療法開発を目指す-幹細胞による脳神経細胞リモデリング解析	木川 昌康	神経精神医学講座	1,000,000	補委 日本学術振興会
MR画像から計算したconductivity値に基づく直腸がん悪性度評価法確立	畠中 正光	放射線診断学	800,000	補委 日本学術振興会
臨床応用を考慮した実用的な放射線感受性予測法の開発	坂田 耕一	放射線医学講座	1,000,000	補委 日本学術振興会
個別化放射線治療に向けたリキッドバイオプシーの応用	染谷 正則	放射線医学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ヒトパルボウイルスB19感染症における病態多様性とウイルスゲノム変異との関連性	要藤 裕孝	小児科学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会
非アルコール性脂肪性肝炎に基づく肝発癌における概日時計の影響	佐々木 茂	消化器内科学講座	1,400,000	補委 日本学術振興会
肝癌細胞特異的薬物搬送とClass選択的HDAC阻害薬による新規肝癌治療開発	宮西 浩嗣	腫瘍内科学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会
潰瘍性大腸炎関連大腸癌におけるサイトメガロウイルス腸管局所再活性化が及ぼす影響	川上 賢太郎	消化器内科学講座	900,000	補委 日本学術振興会
ピロリ菌除菌後の胃発がんにおける新規バイオマーカの解析および臨床応用の検討	三橋 慧	消化器内科学講座	1,000,000	補委 日本学術振興会
心不全の病態における心筋ネクロトーシスの役割とオートファジーの関連	三浦 哲嗣	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	700,000	補委 日本学術振興会
肺マイクロバイオーム解析に基づくIPF急性増悪の病態解明と革新的治療法への展開	千葉 弘文	呼吸器・アレルギー内科学講座	1,000,000	補委 日本学術振興会
膵管内乳頭粘液性腫瘍の新規マウスモデルで発見された病態分子の臨床応用的機能解明	山口 洋志	消化器・総合・乳腺・内分泌外科学講座	1,200,000	補委 日本学術振興会
術後虚血性脊髄障害に対する間葉系幹細胞を用いた治療法の開発	安田 尚美	心臓血管外科学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会
ヒト中枢神経系におけるGlymphatic systemの機能解明	秋山 幸功	脳神経外科学講座	900,000	補委 日本学術振興会
血液脊髄関門の破綻に注目した新規ALS動物モデルの開発と骨髄幹細胞による治療	小野寺 理恵	フロンティア医学研究所神経再生医療学部門	1,100,000	補委 日本学術振興会
てんかん発作誘発機構解明のための病理組織学的研究	三國 信啓	脳神経外科学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会
実験的脊髄損傷後に生じる脳における可塑性の骨髄間葉系幹細胞による亢進作用の解析	長濱 宏史	フロンティア医学研究所神経再生医療学部門	1,000,000	補委 日本学術振興会
脊損に対する骨髄幹細胞移植における介在ニューロンにより再構築される神経回路の解析	廣田 亮介	整形外科科学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会
骨軟部腫瘍における転移診断バイオマーカの同定と治療応用可能な融合遺伝子の探索	濱田 修人	整形外科科学講座	1,200,000	補委 日本学術振興会
間質性膀胱炎に対する骨髄幹細胞移植による革新的治療法の開発	田端 秀敏	泌尿器科学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会
線維化機序に着目したIgG4関連疾患の病態解明	高野 賢一	耳鼻咽喉科学講座	700,000	補委 日本学術振興会
ヒト鼻粘膜におけるp63を介した新規抗原・感染防御機構の解明	大國 毅	耳鼻咽喉科学講座	1,000,000	補委 日本学術振興会
ヒト小児咽頭扁桃における粘膜免疫誘導メカニズムの解明	小笠原 徳子	耳鼻咽喉科学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会
糖尿病網膜症モデルラットの網膜微細血管内皮細胞におけるタイト結合蛋白の発現と機能	稲富 周一郎	眼科学講座	1,400,000	補委 日本学術振興会
眼内炎症における酸化リン脂質の細胞障害性とその代謝の解明	平岡 美紀	眼科学講座	1,700,000	補委 日本学術振興会
軟骨は移植された後どのような代謝が生じるのか? -糖鎖工学を用いた生化学的検討-	四ッ柳 高敏	形成外科学講座	900,000	補委 日本学術振興会
消化器癌のmicrobiota解析と次世代免疫治療における診断・治療への応用	能正 勝彦	消化器内科学講座	1,300,000	補委 日本学術振興会
AYA世代難治性軟部肉腫に対する新規標的抗がん治療法の開発	村瀬 和幸	腫瘍内科学講座	1,700,000	補委 日本学術振興会
がん患者の自殺の実態調査と医療者を対象とした自殺予防研修プログラムの開発研究	河西 千秋	神経精神医学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会
放射線治療による腫瘍免疫活性化の予測法の開発	長谷川 智一	放射線医学講座	1,300,000	補委 日本学術振興会
骨髄間葉系幹細胞移植を用いた難治性てんかんに対する新規治療法の開発	福村 忍	小児科学講座	1,200,000	補委 日本学術振興会
急性・慢性腎障害後の腎繊維化に対するMicroRNA-21を用いた新規治療薬開発	川崎 幸彦	小児科学講座	1,200,000	補委 日本学術振興会
STEAP1を介した酸化ストレス制御による新規肝細胞癌治療法の開発	高田 弘一	腫瘍内科学講座	1,700,000	補委 日本学術振興会
鉄欠乏に対する心筋ミトコンドリア応答性の低下が心不全に及ぼす影響の検討	佐藤 達也	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会
ネクロトーシスシグナル異常を標的とした心不全治療の開発	矢野 俊之	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	1,000,000	補委 日本学術振興会
脂質シャペロンが寄与する脂質代謝と腎臓病の発症及び進展機序の解明	田中 希尚	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	1,500,000	補委 日本学術振興会
1細胞遺伝子発現解析によるメラノーマ細胞の増殖及び免疫関連分子間の関係性の解明	宇原 久	皮膚科学講座	1,200,000	補委 日本学術振興会
抗PD-1抗体投与による濾胞性ヘルパーT細胞とCD4+T細胞の変動の意義	加藤 潤史	皮膚科学講座	900,000	補委 日本学術振興会
骨髄内細胞外小胞によるAML/MDSの病態進展機構の解析	小船 雅義	血液内科学	1,600,000	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
大腸癌切除検体内貯留血のリキッドバイオプシーを用いた再発診断精度向上に関する研究	浜部 敦史	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	2,600,000	補委 日本学術振興会
膵癌特異的ゲノム変異のliquid biopsyによる超早期術後再発診断法の開発	木村 康利	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	1,000,000	補委 日本学術振興会
直腸切除後排便障害の予防と治療のための主観的・生理学的・解剖学的な病態解明	秋月 恵美	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	900,000	補委 日本学術振興会
腸内細菌叢の安定化を主軸とした、周術期神経炎症関連疾患の予防戦略	山蔭 道明	麻酔科学講座	1,200,000	補委 日本学術振興会
抗血小板薬・DOAC使用及び中止時の抗血栓性を捉えるモニタリング化	枝長 充隆	麻酔科学講座	400,000	補委 日本学術振興会
妊娠鎮痛の機序を介した神経障害性疼痛の新規治療戦略：前帯状皮質の果たす役割の解明	澤田 敦史	麻酔科学講座	1,500,000	補委 日本学術振興会
神経筋伝達に変化する病態における筋弛緩薬・拮抗薬の投与方法と筋力評価方法の検討	高橋 和伸	麻酔科学講座	700,000	補委 日本学術振興会
敗血症性心筋症へのVA-ECMOと腸管虚血予防－合併症制御による新規治療の確立	原田 敬介	救急医学講座	2,000,000	補委 日本学術振興会
脳梗塞に対する骨髄幹細胞移植による神経回路の再構築における分子メカニズムの解明	本望 修	フロンティア医学研究所神経再生医療学部門	1,100,000	補委 日本学術振興会
口腔がん幹細胞標的ワクチンを主体とした個別化・複合がん免疫療法の開発	宮崎 晃亘	口腔外科学講座	1,400,000	補委 日本学術振興会
再発口腔がんに対する遺伝子変異量が免疫チェックポイント阻害剤の有効性を検証する	荻 和弘	口腔外科学講座	1,300,000	補委 日本学術振興会
骨髄幹細胞の自己治癒能と全身の恒常性維持による健康寿命延長	佐々木 優子	フロンティア医学研究所神経再生医療学部門	1,100,000	補委 日本学術振興会
ミクログリア機能不全に対する新規アルツハイマー病治療の開発	岩原 直敏	神経内科学講座	500,000	補委 日本学術振興会
職別フラボノイドクエルセチンの強心作用と分子メカニズムに関する研究	早水 憲吾	麻酔科学講座	1,061,842	補委 日本学術振興会
α-klotho遺伝子欠損による創治癒遷延メカニズムの解明と治療薬の開発	須貝 明日香	形成外科学講座	800,000	補委 日本学術振興会
アルツハイマー病における脳内酸化ストレス動態の解明と骨髄間葉系幹細胞治療の確立	横川 和樹	神経内科学講座	1,000,000	補委 日本学術振興会
オキシトシンによる妊娠ラット子宮筋収縮に対する麻酔薬の影響と機序	君塚 基修	麻酔科学講座	400,000	補委 日本学術振興会
敗血症における乳酸生成はアドレナリンが誘導するのか？	文屋 尚史	救急医学講座	300,000	補委 日本学術振興会
プロポフォール注入症候群治療戦略の探求－デクスメトミジンの可能性を探る	茶木 友浩	麻酔科学講座	500,000	補委 日本学術振興会
有機リン中毒および重症脳損傷における呼吸リズム異常の病態解明	野村 和史	救急医学講座	500,000	補委 日本学術振興会
腸管洗浄液DNAメチル化を応用した大腸がんリスク予測・超早期診断法の開発	久保 俊之	消化器内科学講座	1,400,000	補委 日本学術振興会
アルツハイマー病モデルにおける骨髄間葉系幹細胞の作用機序/病態解明	松村 晃寛	神経内科学講座	900,000	補委 日本学術振興会
リキッドバイオプシーを用いた腫瘍免疫能と放射線治療の解析	土屋 高旭	放射線医学講座	1,500,000	補委 日本学術振興会
胆道癌幹細胞を標的とするエクソソームの同定と新規標的治療への応用	石上 敬介	消化器内科学講座	1,600,000	補委 日本学術振興会
大腸癌の発育進展に関する常在微生物F.nucleatumの解析と予防法の探索	菅野 伸一	消化器内科学講座	1,600,000	補委 日本学術振興会
左室逆リモデリングの予測因子の検討	永野 伸卓	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	500,000	補委 日本学術振興会
肺がんの治療薬、診断薬としてのSP-Dの臨床応用	梅田 泰淳	呼吸器・アレルギー内科学講座	1,600,000	補委 日本学術振興会
皮膚老化ホルモンPr12c3の作用とそのメカニズム	堀本 浩平	皮膚科学講座	1,000,000	補委 日本学術振興会
肝再生置換療法の臨床応用の為のIn vivoプラント確立の橋渡し研究	石井 雅之	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	1,000,000	補委 日本学術振興会
糖代謝・転写因子KLF4/FOXM1を標的とした膵癌の新規治療法の基盤的研究	及能 拓朗	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	1,400,000	補委 日本学術振興会
Limb remote ischemic preconditioningの解明	澤下 泰明	麻酔科学講座	1,000,000	補委 日本学術振興会
虚血脳のかも膜変性における慢性炎症の解析 新規治療の開発にむけて	鈴木 比女	脳神経外科学講座	1,000,000	補委 日本学術振興会
筋脂肪細胞と炎症性サイトカインの関連に着目した疼痛発生メカニズムの解明	高島 弘幸	整形外科科学講座	900,000	補委 日本学術振興会
マイクロRNAとエピゲノム機構の相互作用による膀胱癌シスプラチン耐性化機序の解明	進藤 哲哉	泌尿器科学講座	1,600,000	補委 日本学術振興会
機能的リンパ球を標的としたシラカバ花粉症の新規治療戦略	山本 圭佑	耳鼻咽喉科学講座	700,000	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
新規口腔がん関連長鎖non-coding RNAの機能解析と臨床応用	西山 廣陽	口腔外科学講座	1,200,000	補委 日本学術振興会
幼児期における姿勢運動制御機構の発達に関する基礎的研究	宮城島 沙織	リハビリテーション医学講座	500,000	補委 日本学術振興会
高齢心不全の栄養状態が生活機能低下の発生に及ぼす影響—多施設共同研究—	片野 俊敏	リハビリテーション医学講座	600,000	補委 日本学術振興会
IAP阻害剤による新規多発性骨髄腫治療の開発	菊地 尚平	腫瘍内科学講座	1,600,000	補委 日本学術振興会
幹細胞関連転写因子に着目した大腸癌術後再発診断のためのリキッドバイオプシーの開発	五十嵐 央祥	消化器内科学講座	1,800,000	補委 日本学術振興会
レビー小体型認知症における生物学的マーカーの探索	岩本 倫	神経精神医学講座	1,500,000	補委 日本学術振興会
免疫染色やリキッドバイオプシーによる頭頸部癌の腫瘍免疫能と放射線治療の解析	福島 悠希	放射線医学講座	1,800,000	補委 日本学術振興会
リキッドバイオプシーを用いた肺癌個別化放射線治療の検討	北川 未央	放射線医学講座	900,000	補委 日本学術振興会
CT ナビゲーション超音波ガイドによる安全な中心静脈穿刺ラインの考案	斉藤 正人	放射線医学講座	1,800,000	補委 日本学術振興会
酸化的DNA傷害修復酵素欠損マウスを用いたNASH肝発癌機序の解明および治療応用	田中 信悟	腫瘍内科学講座	1,600,000	補委 日本学術振興会
膵癌組織における免疫担当細胞と、腫瘍免疫機構におけるSTAT3の役割	伊東 文子	消化器内科学講座	200,000	補委 日本学術振興会
低酸素誘導因子 (HIF)-1 $\alpha$ の新規経路に着目した進行胃がん治療戦略の開発	大須賀 崇裕	腫瘍内科学講座	1,600,000	補委 日本学術振興会
肝細胞癌におけるBRD4阻害の抗腫瘍メカニズムの解明	佐々木 基	消化器内科学講座	1,500,000	補委 日本学術振興会
糖鎖修飾を標的とした転移制御とナノキャリアを用いた大腸癌の新規薬物治療の開発	吉田 真誠	腫瘍内科学講座	1,600,000	補委 日本学術振興会
B細胞応答を司る濾胞ヘルパーT細胞と濾胞制御性T細胞の大腸癌への影響に関する研究	平川 昌宏	腫瘍内科学講座	1,600,000	補委 日本学術振興会
DOT1L阻害による多発性骨髄腫の新規治療法の開発	石黒 一也	消化器内科学講座	1,900,000	補委 日本学術振興会
麻酔手術侵襲による腸内フローラ環境変容と認知機能低下との連動解明	立花 俊祐	麻酔科学講座	1,000,000	補委 日本学術振興会
アクアポリンに着目した周術期における新たな輸液管理戦略の開発	濱田 耕介	麻酔科学講座	1,200,000	補委 日本学術振興会
デクスメトミジンによる外傷性脳損傷後の術後認知機能障害軽減効果の検討	齋藤 菜摘	麻酔科学講座	1,900,000	補委 日本学術振興会
トロンボモジュリンを用いた敗血症におけるDAMPs蛋白抑制と臓器障害軽減の解明	赤塚 正幸	集中治療医学	800,000	補委 日本学術振興会
糖尿病における尿中糖濃度と尿路・性器感染症原因および薬剤感受性に与える影響	桧山 佳樹	泌尿器科学講座	1,400,000	補委 日本学術振興会
頭頸部がんにおける微小環境を標的とした新規治療法の開発	萬 頭	耳鼻咽喉科学講座	1,500,000	補委 日本学術振興会
唾液腺上皮におけるGBP-1の癌細胞動態への影響の解明	宮田 遼	耳鼻咽喉科学講座	900,000	補委 日本学術振興会
糖尿病性潰瘍を骨髄から治す—骨髄自律神経修復による根治療法—の開発	北 愛里紗	形成外科学講座	600,000	補委 日本学術振興会
口腔がん悪性度に関するDLEU1の作用機構の解明とその臨床応用	畠中 柚衣	口腔外科学講座	1,500,000	補委 日本学術振興会
慢性気道疾患におけるインパルスオキシメントリーシステムを用いた診断法の開発	横山 早織	呼吸器・アレルギー内科学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会
CIML NK細胞の各subset毎の機能解析とそれを応用した胃癌新規治療の開発	久保 智洋	腫瘍内科学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会
Kaiso,P120複合体を標的としたリンパ系腫瘍に対する新規治療法の開発	堀口 拓人	血液内科学	1,100,000	補委 日本学術振興会
近赤外線蛍光発色によるVEGFR2を標的とした肝切除術中ナビゲーション技術の開発	及能 大輔	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	1,100,000	補委 日本学術振興会
強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドラインに関する研究	高橋 裕樹	免疫・リウマチ内科学講座	100,000	補委 厚生労働省
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	仲瀬 裕志	消化器・内科学講座	500,000	補委 厚生労働省
びまん性肺疾患に関する調査研究	高橋 弘毅	呼吸器・アレルギー内科学講座	300,000	補委 厚生労働省
慢性疼痛診療システムの均てん化と痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	山下 敏彦	整形外科講座	200,000	補委 厚生労働省
IgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	仲瀬 裕志	消化器・内科学講座	500,000	補委 厚生労働省
IgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	高橋 裕樹	免疫・リウマチ内科学講座	600,000	補委 厚生労働省



研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
WHOの自殺予防戦略に基づくがん患者自殺予防プログラムの開発	河西 千秋	神経精神医学講座	3,185,000	補委 厚生労働省
先天性及び若年性の視覚聴覚二重障害に対する一体的診断体制に関する研究	高野 賢一	耳鼻咽喉科	100,000	補委 厚生労働省
成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの充実化に資する研究	黒沼 幸治	呼吸器・アレルギー内科学講座	400,000	補委 厚生労働省
2019士幌町における肺炎球菌ワクチン接種が肺炎発症に及ぼす影響に関する前向きコホート研究	高橋 弘毅 黒沼 幸治	呼吸器・アレルギー内科学講座	2,160,000	補委 士幌町
2019南檜山圏域周産期環境研究事業	齊藤 豪 山蔭 道明	産婦人科学講座 麻酔科学講座	12,000,000	補委 北海道
2019健康診断に基づいた小児期からの生活習慣病対策の推進における調査及び分析	鎌崎 穂高 竹内 孝子	小児科学講座	434,174	補委 釧路市
人工内耳装着者の支援センター機能のモデル化事業と発達段階別PDCAサイクル基本型の構築	氷見 徹夫	耳鼻咽喉科学講座	4,270,000	補委 日本医療研究開発機構
家族性地中海熱関連腸炎の診断法確立と病態解明を目指す研究	仲瀬 裕志	消化器内科学講座	5,200,000	補委 日本医療研究開発機構
従来の抗菌薬開発法にとらわれない、新たな細菌感染症治療薬のスクリーニングに関する研究開発	佐藤 登孝 齋藤 充史 板垣 中郎	微生物学講座 呼吸器・アレルギー内科学講座	6,500,000	補委 日本医療研究開発機構
多系統委縮症の自然歴と新規バイオマーカー開発に関する研究	下濱 俊	神経内科学講座	390,000	補委 日本医療研究開発機構
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	江森 誠人	整形外科科学講座	208,000	補委 日本医療研究開発機構
IgG4 関連疾患の新規バイオマーカーと治療ターゲット開発に関する研究	高橋 裕樹	免疫・リウマチ内科学講座	2,080,000	補委 日本医療研究開発機構
小児期のウイルス性肝炎の病態解明と治療の標準化に関する研究	要藤 裕孝	小児科学講座	150,000	補委 日本医療研究開発機構
適時適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究	下濱 俊	神経内科学講座	800,000	補委 日本医療研究開発機構
社会的ひきこもりの長期化打開のためのエビデンスに基づく家族向け教育支援モデルの構築	館農 勝	神経精神医学講座	199,999	補委 日本医療研究開発機構
大量メチルコバラミン筋注によるALSの治療薬開発研究	下濱 俊	神経内科学講座	300,000	補委 日本医療研究開発機構
対策型検診を目指した大腸内視鏡検診の有効性評価のためのランダム化比較試験	山野 泰穂	消化器内科学講座	227,500	補委 日本医療研究開発機構
下痢症ウイルス感染症の分子疫学および流行予測に関する研究	津川 毅	小児科学講座	1,500,000	補委 日本医療研究開発機構
高ずり応力を伴う循環器難病に随伴する出血性合併症予知法の開発	仲瀬 裕志	消化器内科学講座	130,000	補委 日本医療研究開発機構
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の原因となる難病の診療向上に向けた、疾患横断的な全国多施設レジストリ研究	高野 賢一	耳鼻咽喉科学講座	325,000	補委 日本医療研究開発機構
乳がん治療における心臓合併症の画像診断を用いた新たなリスク因子探索と心機能評価法標準化に関する研究-Cardio-oncologyの実践	矢野 俊之	循環器・腎臓・代謝内科学講座	300,001	補委 日本医療研究開発機構
シャルコー・マリー・トゥース病の診療エビデンスの創出と臨床試験の基盤を構築する研究	渡邊 耕太	理学療法第二講座 /整形外科科学講座	390,000	補委 日本医療研究開発機構
ワクチン導入後のロタウイルスのフルゲノム解析に基づく分子疫学研究	津川 毅	小児科学講座	650,000	補委 日本医療研究開発機構
Borderline Resectable膵癌の集学的治療法確立に関する多施設共同研究	木村 康利	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	390,000	補委 日本医療研究開発機構
アカデミアにおけるCDISC標準利用推進のための施設間連携に関する研究	樋之津 史郎	医療統計学	338,000	補委 日本医療研究開発機構
H30子どもの健康と環境に関する全国調査北海道ユニットセンター委託業務(エコチル調査)	馬場 剛 小林 正樹	産科周産期科学	305,556	補委 北海道大学
遺伝性腫瘍のゲノム医療の臨床実装のための基盤技術開発と精度管理に関する研究(課題番号:31-A-2)	櫻井 晃洋	遺伝医学	500,000	補委 日本医療研究開発機構
シミュレーションモデルに基づく個別化がん予防アプローチの効果検証研究(課題番号:31-A-20)	加茂 憲一	数学・情報科学	150,000	補委 日本医療研究開発機構

計 165

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Hiroshi Nakase	消化器内科学講座	Opening the epithelial barrier: osteopontin preserves gut barrier function during intestinal inflammation.	Dig Dis Sci 2019, 64:294-296	Letter
2	Ishiguro K, Kitajima H, Niinuma T	消化器内科学講座	DOT1L inhibition blocks multiple myeloma cell proliferation by suppressing IRF4-MYC signaling.	Haematologica 2019, 104:155-165	Original Article
3	Yamashita K, Suzuki R, Kubo T	消化器内科学講座	Gastric xanthomas and fundic gland polyps as endoscopic risk indicators of gastric cancer.	Gut Liver 2019, 13:409-414	Original Article
4	Wagatsuma K, Yamada S, Ao M	消化器内科学講座	Diversity of gut microbiota affecting serum level of undercarboxylated osteocalcin in patients with Crohn's Disease.	Nutrients 2019, 11:E1541	Original Article
5	Ishigami K, Sakuma T, Saito M	消化器内科学講座	Arteriovenous malformation in pancreas mimicking hypervascular tumor	JGH Open. 2020 Aug; 4(4): 773-774.	Case report
6	Gota Sudo, Toshihisa Kobayashi, Hiroshi Nakase	消化器内科学講座	Brunner's Gland Hamartoma Arising From the Pyloric Ring	Clin Gastroenterol Hepatol . 2019 Dec;17(13):e155.	Case report
7	Gota Sudo, Hironori Aoki, Yuko Omori	消化器内科学講座	Sigmoid colon tumor with G-nas mutation presenting unique morphology	Gastrointest Endosc . 2020 Jun 9;S0016-5107(20)34413-8.	Case report
8	Sae Ohwada, Kentaro Yamashita, Tomoe Kazama	消化器内科学講座	Double small bowel cancers leading to the diagnosis of Lynch syndrome with germline MSH6 mutation in an elderly patient	Clin J Gastroenterol . 2020 Oct;13(5):766-770.	Case report
9	Yoshihiro Yokoyama, Tsukasa Yamakawa, Takehiro Hirano	消化器内科学講座	Current Diagnostic and Therapeutic Approaches to Cytomegalovirus Infections in Ulcerative Colitis Patients Based on Clinical and Basic Research Data	Int J Mol Sci . 2020 Mar 31;21(7):2438.	Review
10	Takehiro Hirano, Daisuke Hirayama, Kohei Wagatsuma	消化器内科学講座	Immunological Mechanisms in Inflammation-Associated Colon Carcinogenesis	Int J Mol Sci . 2020 Apr 26;21(9):3062.	Review
11	Hiroshi Nakase, Takehiro Hirano, Kohei Wagatsuma	消化器内科学講座	Artificial intelligence-assisted endoscopy changes the definition of mucosal healing in ulcerative colitis	Dig Endosc . 2020 Sep 10. doi: 10.1111/den.13825.	Review

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
12	Yujiro Kawakami, Shinsuke Koshita, Yoshihide Kanno	消化器内科学講座	Recanalization of an obstructive pancreaticojejunal anastomosis with direct visualization by using antegrade peroral pancreateoscopy	Endoscopy . 2020 Oct;52(10):E376- E377.	Original Article
13	Hiroshi Nakase	消化器内科学講座	Treatment of inflammatory bowel disease from the immunological perspective	Immunol Med . 2020 Jun;43(2):79-86.	Review
14	Hiroshi Nakase, Takayuki Matsumoto, Kenji Watanabe	消化器内科学講座	The shining DIAMOND for evidence- based treatment strategies for Crohn's disease	J Gastroenterol . 2020 Sep;55(9):824-832.	Review
15	Hiroshi Nakase, Keisuke Ishigami	消化器内科学講座	New paradigm of B-cell biology regarding the elucidation of a new mechanism of tissue fibrosis in IgG 4- related disease	J Allergy Clin Immunol . 2020 Mar;145(3):785- 787.	Review
16	Hiroshi Nakase, Takayuki Matsumoto, Minoru Matsuura	消化器内科学講座	Expert Opinions on the Current Therapeutic Management of Inflammatory Bowel Disease during the COVID-19 Pandemic: Japan IBD COVID-19 Taskforce, Intractable Diseases, the Health and Labor Sciences Research	Digestion . 2020 Sep 4;1-9.	Original Article
17	Numaguchi R, Furuhashi M, Matsumoto M, et al.	Sapporo Medical University	Differential Phenotypes in Perivascular Adipose Tissue Surrounding the Internal Thoracic Artery and Diseased Coronary Artery.	J Am Heart Assoc. 2019 Jan 22;8(2):e011147.	Original Article
18	Kimura Y, Kuno A, Tanno M, et al.	Sapporo Medical University	Canagliflozin, a sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor, normalizes renal susceptibility to type 1 cardiorenal syndrome through reduction of renal oxidative stress in diabetic rats.	J Diabetes Investig. 2019 Jul;10(4):933-946.	Original Article
19	Sato T, Miki T, Furukawa S, Matsuura T, et al.	Sapporo Medical University	Longitudinal impact of dapagliflozin treatment on ventricular repolarization heterogeneity in patients with type 2 diabetes.	J Diabetes Investig. 2019 Nov;10(6):1593-1594.	Original Article
20	Kawamukai M, Hashimoto A, Koyama M, et al.	Sapporo Medical University	Risk classification of pulmonary arterial hypertension by echocardiographic combined assessment of pulmonary vascular resistance and right ventricular function.	Heart Vessels. 2019 Nov;34(11):1789-1800.	Original Article
21	Furuhashi M, Koyama M, Matsumoto M, et al.	Sapporo Medical University	Annual change in plasma xanthine oxidoreductase activity is associated with changes in liver enzymes and body weight.	Endocr J. 2019 Sep 28;66(9):777-786.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
22	Kouzu H, Yano T, Nagano N, et al.	Sapporo Medical University	Postpartum Heart Failure Complicated With Thyroiditis: A Concealed Aggravator of Peripartum Cardiomyopathy?	Can J Cardiol. 2019 Jun;35(6):796.e1-796.e3.	Case report
23	Matsumoto T, Ohnishi H, Sato T, et al.	Sapporo Medical University	Insulin Resistance is Associated with Longitudinal Changes of Cardiac Repolarization Heterogeneity in Apparently Healthy Subjects.	Cardiol Ther. 2019 Jul 4;8(2):239-251.	Original Article
24	Yano T, Osanami A, Shimizu M, et al.	Sapporo Medical University	Utility and safety of tocilizumab in Takayasu arteritis with severe heart failure and muscle wasting.	ESC Heart Fail. 2019 Aug;6(4):894-897.	Case report
25	Abe K, Yano T, Tanno M, et al.	Sapporo Medical University	mTORC1 inhibition attenuates necroptosis through RIP1 inhibition-mediated TFEB activation.	Biochim Biophys Acta Mol Basis Dis. 2019 Dec 1;1865(12):165552.	Original Article
26	Kishiue N, Yano T, Koyama M, et al.	Sapporo Medical University	Vanishing Cardiac Tumor: Cardiac Involvement in Methotrexate-Associated Lymphoproliferative Disorders.	Circ Cardiovasc Imaging. 2019 Nov;12(11):e009689.	Case report
27	Katano S, Yano T, Ohori K, et al.	Sapporo Medical University	Novel prediction equation for appendicular skeletal muscle mass estimation in patients with heart failure: Potential application in daily clinical practice.	Eur J Prev Cardiol. 2020 Feb 11:2047487320904236.	Letter
28	Furuhashi M, Koyama M, Higashiura Y, et al.	Sapporo Medical University	Differential regulation of hypoxanthine and xanthine by obesity in a general population.	J Diabetes Investig. 2020 Jan 8;11(4):878-87.	Original Article
29	Nagano N, Yano T, Fujita Y, et al.	Sapporo Medical University	Assessment of prognosis in immunoglobulin light chain amyloidosis patients with severe heart failure: a predictive value of right ventricular function.	Heart Vessels. 2020 Apr;35(4):521-530.	Original Article
30	Mori Y, Nishikiori H, Takahashi H, et al	札幌医科大学医学部呼吸器・アレルギー内科学講座	Respiratory reactance in forced oscillation technique reflects disease stage and predicts lung physiology deterioration in idiopathic pulmonary fibrosis	Respir Physiol Neurobiol. 2020;275:103386	Original Article
31	Umeda Y, Otsuka M, Takahashi H, et al.	札幌医科大学医学部呼吸器・アレルギー内科学講座	Feasibility of rapid on-site cytological evaluation of lung cancer by a trained pulmonologist during bronchoscopy examination.	Cytopathology.2019;30:628-633	Original Article
32	Taya T, Chiba H, Takahashi H, et al.	札幌医科大学医学部呼吸器・アレルギー内科学講座	Risk factors for acute exacerbation of idiopathic interstitial pneumonia in patients undergoing lung cancer treatment.	Jpn J Clin Oncol. 2019;49:1126-1133.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
33	Hayasaka N, Takada K, Nakamura H, Arihara Y, Kawano Y, Osuga T, Murase K, Kikuchi S, Iyama S, Emori M, Sugita S, Hasegawa T, Takasawa A, Miyanishi K, Kobune M, Kato J	腫瘍内科	Combination of eribulin plus AKT inhibitor evokes synergistic cytotoxicity in soft tissue sarcoma cells.	Scientific Reports. 2019 Apr 8;9(1):5759	Original Article
34	Yamaguchi H, Kimura Y, Nagayama M, Imamura M, Tanaka S, Yoshida M, Yoshida E, Fujino H, Machiki T, Miyanishi K, Mizuguchi T, Kato J, Takemasa I.	消化器・総合、乳腺・内分泌外科	Central pancreatectomy in portal annular pancreas for metastatic renal cell carcinoma: a case report	World Journal of Surgical Oncology. 2019 Apr 30;17(1):76	Case report
35	Miura S, Kobune M, Horiguchi H, Kikuchi S, Iyama S, Murase K, Goto A, Ikeda H, Takada K, Miyanishi K, Kato J.	腫瘍内科	EPO-R+ myelodysplastic cells with ring sideroblasts produce high erythroferrone levels to reduce hepcidin expression in hepatic cells.	Blood Cells, Molecules and Diseases. 2019 Sep;78:1-8	Original Article
36	Nakamura H, Kawano Y, Miyanishi K, Ishikawa K, Kubo T, Tanaka S, Takada K, Kobune M, Harada K, Kawamura N, Shimamura T, Kanno-Okada H, Kato J.	腫瘍内科	Successful Treatment of Hepatocellular Carcinoma with Transcatheter Arterial Chemoembolization followed by Radical Liver Transplantation in a Patient with Severe Liver Damage.	Case Reports in Oncology. 2019 Apr 3;12(1):289-296	Original Article
37	Takada K, Murase K, Nakamura H, Hayasaka N, Arihara Y, Iyama S, Ikeda H, Emori M, Sugita S, Nakamura K, Miyanishi K, Kobune M, Kato J.	腫瘍内科	Pneumothorax as an Adverse Event in Patients with Lung Metastasis of Soft Tissue Sarcoma under Eribulin Treatment: Two Case Reports.	Internal Medicine 2019 Jun 27.	Case report
38	Fujimi A, Nagamachi Y, Yamauchi N, Tamura F, Kimura T, Miyajima N, Inomata H, Nishisato T, Yoshida M, Takada K, Kobayashi K, Kato J	清田病院 血液内科	Gastrointestinal Stromal Tumor in a Patient with Neurofibromatosis Type 1 That Was Successfully Treated with Regorafenib	Internal Medicine. 2019 Jul 1;58(13):1865-1870	Original Article
39	Tagami Y, Sugita S, Kubo T, Iesato N, Emori M, Takada K, Tsujikawa M, Segawa K, Sugawara T, Kikuchi T, Hasegawa T	旭川赤十字病院 病理診断科	Spindle cell rhabdomyosarcoma in a lumbar vertebra with FUS-TFCP2 fusion.	Pathology - Research and Practice. 2019 Aug;215(8):152399	Original Article
40	Nakamura H, Takada K, Arihara Y, Hayasaka N, Murase K, Iyama S, Kobune M, Miyanishi K, Kato J.	腫瘍内科	Six-transmembrane epithelial antigen of the prostate 1 protects against increased oxidative stress via a nuclear erythroid 2-related factor pathway in colorectal cancer	Cancer Gene Therapy. 2019 Sep;26(9-10):313-322	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
41	Takada K, Sugita S, Murase K, Kikuchi T, Oomori G, Ito R, Hayasaka N, Miyanishi K, Iyama S, Ikeda H, Kobune M, Emori M, Kato J, Hasegawa T	腫瘍内科	Exceptionally rapid response to pembrolizumab in a SMARCA4-deficient thoracic sarcoma overexpressing PD-L1: A case report.	Thoracic Cancer. 2019 Oct 16.	Case report
42	Takada K, Murase K, Nakamura H, Hayasaka N, Arihara Y, Iyama S, Ikeda H, Emori M, Sugita S, Nakamura K, Miyanishi K, Kobune M, Kato J.	腫瘍内科	Pneumothorax as an Adverse Event in Patients with Lung Metastasis of Soft Tissue Sarcoma under Eribulin Treatment.	Internal Medicine. 2019 Oct 15;58(20):3009-3012	Original Article
43	Nakamura H, Kikuchi S, Ohnuma H, Hirakawa M, Kato J.	腫瘍内科	Total buried bumper syndrome: A case study in transabdominal removal using a technique of endoscopic submucosal dissection.	Clinical Case Reports. 2019 Sep 3;7(10):2012-2013	Original Article
44	Ishikawa K, Kawano Y, Arihara Y, Kubo T, Takada K, Murase K, Miyanishi K, Kobune M, Kato J	腫瘍内科	BH3 profiling discriminates the anti-apoptotic status of 5-fluorouracil-resistant colon cancer cells.	Oncology Reports. 2019 Dec;42(6):2416-2425	Original Article
45	Nakahashi N, Emori M, Tsuchie H, Nagasawa H, Sonoda T, Takada K, Miyajima M, Watanabe A, Shimada Y, Yamashita T.	整形外科	Treatment outcome of chest wall soft tissue sarcomas: Analysis of prognostic factors	Journal of Surgical Oncology. 2019 Dec;120(7):1235-1240	Original Article
46	Usami M, Kikuchi S, Takada K, Ono M, Sugama Y, Arihara Y, Hayasaka N, Nakamura H, Ikeda Y, Hirakawa M, Yoshida M, Miyanishi K, Kobune M, Kato J.	腫瘍内科	FOXO3a Activation by HDAC Class IIa Inhibition Induces Cell Cycle Arrest in Pancreatic Cancer Cells	Pancreas. 2020 Jan;49(1):135-142	Original Article
47	Hirakawa M, Ishizuka R, Sato M, Hayasaka N, Ohnuma H, Murase K, Takada K, Ito T, Nobuoka T, Miyanishi K, Kobune M, Takemasa I, Kato J.	腫瘍内科	Management of Multiple Arteriovenous Malformations of the Small Bowel	Case Reports in Medicine Volume 2019, Article ID 2046857, Published 11 December 2019	Original Article
48	Sato T, Tatekoshi A, Takada K, Iyama S, Kamihara Y, Jawaid P, Rehman MU, Noguchi K, Kondo T, Kajikawa S, Arita K, Wada A, Murakami J, Arai M, Yasuda I, Dang NH, Hatano R, Iwao N, Ohnuma K, Morimoto C	富山大学病院 血液内科	DPP8 is a novel therapeutic target for multiple myeloma.	Scientific Reports. 2019 Dec 2;9(1):18094.	Original Article
49	Ogi K, Kobayashi J, Nakagaki T, Okamoto J, Koike K, Hirokawa N, Someya M, Sakamoto H, Takada K, Tokino T, Sasaki Y, Hiratsuka H, Miyazaki A.	口腔外科	Chemotherapy after progression on nivolumab is essential for responders with genetic alterations of driver gene: Review of two recurrent/metastatic oral squamous cell carcinoma patients.	Oral Oncology. 2019 Dec 12:104509	Original Article
50	Emori M, Tsuchie H, Nagasawa H, Sonoda T, Tsukamoto A, Shimizu J, Murahashi Y, Mizushima E, Takada K, Murase K, Iesato K, Igarashi K, Hori T, Yamamoto M, Sugita S, Miyakoshi N, Hasegawa T, Shimada Y, Yamashita T.	整形外科	Early Lymph Node Metastasis May Predict Poor Prognosis in Soft Tissue Sarcoma.	International Journal of Surgical Oncology. 2019 Dec 12;2019:6708474	Original Article
51	Nagashima K, Kikuchi S, Iyama S, Fujita C, Goto A, Horiguchi H, Kobune M.	血液内科	Successful brentuximab vedotin monotherapy against late relapse of classical Hodgkin lymphoma 6 years after first remission	Clinical Case Reports. DOI: 10.1002/ccr3.2688. 31 January 2020	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
52	Ikeda Y, Yoshida M, Ishikawa K, Kubo T, Murase K, Takada K, Miyanishi K, Kato J.	血液内科	Pancreatic cancer with leptomeningeal carcinomatosis: case report and literature review	International Cancer Conference Journal. 2020 Mar 14;9(2):96-100	Case report
53	後藤亜香利、井山諭、須釜佑介、他	血液内科	レナリドミド・デキサメタゾン療法を施行したPOEMS症候群	臨床血液 2019;60(4):308-313	Original Article
54	小船雅義、宮西浩嗣	血液内科	鉄欠乏性貧血とその治療指針	消化器の診療 22(2) : 137-142, 2019 May	Original Article
55	大須賀崇裕、宮西浩嗣、田中信悟、他	腫瘍内科	小型混合型肝癌の1例	肝臓 60(8):294-301, 2019	Case report
56	小船雅義、宮西浩嗣、井山諭	血液内科	貧血	今日の診療のためにガイドライン 外来診療 2020:191-197, Mar 24 2020.	Original Article
57	山田充子、吉田正宏、大岩修太郎、他	製鉄記念室蘭病院 消化器内科・胃腸内科・胆膵内科	胸腺摘出術後に血球貪食性リンパ組織球症を合併したGood症候群	臨床血液 2020;61(3):268-273	Original Article
58	加藤淳二、宮西浩嗣	腫瘍内科	鉄と肝疾患	札幌医学雑誌 88(1 - 6) 7~12(2019)	Original Article
59	吉田真誠、石川和真、久保智洋、他	腫瘍内科	3年以上生存した膵癌症例の検討	日本内科学会雑誌 109(Suppl.) : 227, 2020年2月	Original Article
60	Shimizu J, Emori M, Murahashi Y, et al.	整形外科	Pulmonary Metastasectomy Is Associated With Prolonged Survival Among Patients With Bone and Soft Tissue Sarcoma	Molecular and Clinical Oncology. 2020 May;12(5):429-434. doi: 10.3892/mco.2020.2009. Epub 2020 Feb 27.	Original Article
61	Iyama S, Takada K, Yoshida M, et al.	血液内科	Acquired Amegakaryocytic Thrombocytopenic Purpura Possibly Induced by anti-PD-1 Antibody	Annals of Hematology. 2020 May 4. doi: 10.1007/s00277-020-04053-y. Online ahead of print.	Original Article
62	Ikeda Y, Yoshida M, Ishikawa K, et al.	腫瘍内科	Efficacy of Combination Therapy With Dexmedetomidine for Benzodiazepines-Induced Disinhibition During Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography	Therapeutic Advances in Gastroenterology. 2020 Apr 28;vol 13:1756284820911822.	Original Article
63	Ikeda Y, Yoshida M, Ishikawa K, et al.	腫瘍内科	Rare case of acinar cell carcinoma with multiple lesions in the pancreas	JGH Open. 29 June 2020 (オンライン)	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
64	Miyanaga R, Hisahara S, Ohhashi I, et al.	神経内科	Hyperemesis-induced Wernicke-Korsakoff Syndrome due to Hypergastrinemia during Long-term Treatment with Proton Pump Inhibitors	Intern Med. 2020 Jul 14	Original Article
65	小船雅義	血液内科	鉄、総鉄結合能、フェリチン、トランスフェリン飽和度	臨床検査ガイド 2020年改訂版 p.220-224 2020年6月17日	Original Article
66	小船雅義	血液内科	骨髄異形成症候群などの骨髄不全症候群における鉄過剰症の治療	臨床血液61(7):753-763,2020	Original Article
67	小船雅義、堀口拓人、加藤淳二	血液内科	がん化学療法に伴う貧血にはどう対応すればよいか？	薬局71(10):90-95, 2020	Original Article
68	池田裕貴、吉田真誠、石川和真、他	腫瘍内科	同時性多発浸潤性膵管癌の2例	日本消化器内視鏡学会雑誌62(7):785-791,2020	Case report
69	Tada M, Sumi T, Tanaka Y, et al.	札幌医科大学呼吸器外科	MCL1 inhibition enhances the therapeutic effect of MEK inhibitors in KRAS-mutant lung adenocarcinoma cells.	Lung Cancer. 2019 Jul; 133: 88-95.	Original Article
70	Tada M, Miyajima M, Mishina T, et al.	札幌医科大学呼吸器外科	Thoracoscopic Right Basilar Segmentectomy After Right Upper Lobectomy.	Ann Thorac Surg. 2019 Feb; 107(2):e123-e125. (オンライン)	Case report
71	高橋 有毅, 宮島 正博, 辻脇 光洋、他	札幌医科大学呼吸器外科	特異な病態を呈した孤立性線維性腫瘍の3例	日本呼吸器外科学会雑誌 2019年 33巻 1号 p. 37-41	Case report
72	Takahashi Y, Adachi H, Mizukami Y, et al.	札幌医科大学呼吸器外科	Patient outcomes post-pulmonary resection for synchronous bone-metastatic non-small cell lung cancer	J Thorac Dis. 2019 Sep; 11(9): 3836-3845	Original Article
73	Takahashi Y, Miyajima M, Tada M, et al.	札幌医科大学呼吸器外科	Outcomes of completion lobectomy long after segmentectomy	J Cardiothorac Surg. 2019; 14: 116. (オンライン)	Original Article
74	Hirota R, Miyakoshi N, Yoshimoto M, et al.	札幌医科大学整形外科	Comparison of health-related quality of life between double-door laminoplasty and selective laminoplasty for degenerative cervical myelopathy with minimum follow-up of 5 years.	Spine (Phila Pa 1976) . 2019 Feb 15;44(4):E211-E218.	Original Article
75	Morita T, Yoshimoto M, Terashima Y, et al.	札幌医科大学整形外科	Do We Have Adequate Flexion-Extension Radiographs for Evaluating Instability in Patients with Lumbar Spondylolisthesis?	Spine (Phila Pa 1976) . 2020 Jan 1;45(1):48-54.	Original Article



番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
76	Ogon I, Takebayashi T, Takashima H, et al.	札幌医科大学整形外科	Quantitative analysis concerning atrophy and fat infiltration of multifidus muscle with magnetic resonance spectroscopy in chronic low back pain	Spine Surg Relat Res.2019; 3: 163-170.	Original Article
77	Nakahashi N, Emori M, Tsuchie H, et al.	札幌医科大学整形外科	Treatment outcome of chest wall soft tissue sarcomas: Analysis of prognostic factors.	J Surg Oncol. 2019; 120: 1235-1240.	Original Article
78	Oshigiri T, Sasaki T, Sasaki M, et al.	札幌医科大学整形外科	Intravenous Infusion of Mesenchymal Stem Cells Alters Motor Cortex Gene Expression in a Rat Model of Acute Spinal Cord Injury.	J Neurotrauma. 2019; 36: 411-420.	Original Article
79	Yoshimoto M, Iesato N, Terashima Y, et al.	札幌医科大学整形外科	Mid-term clinical results of microendoscopic decompression for lumbar foraminal stenosis.	Spine Surg Relat Res. 2019; 3: 229-235.	Original Article
80	Shoji H, Teramoto A, Sakakibara Y, et al.	札幌医科大学整形外科	Kinematics and Laxity of the Ankle Joint in Anatomic and Nonanatomic Anterior Talofibular Ligament Repair: A Biomechanical Cadaveric Study.	Am J Sports Med. 2019; 47: 667-673.	Original Article
81	Watanabe K, Teramoto A, Kobayashi T, et al.	札幌医科大学整形外科	Modified distal tibial oblique osteotomy for osteoarthritis of the ankle: Operative procedure and preliminary results.	J Orthop Sci. 2019; 24: 306-311.	Original Article
82	Ogon I, Takebayashi T, Takashima H, et al.	札幌医科大学整形外科	Analysis of neuropathic pain with magnetic resonance imaging T2 mapping of intervertebral disc in chronic low back pain.	Asian Spine J. 2019; 13: 403-409.	Original Article
83	Maki M, M Miyajima, Ogura K, et al.	札幌医科大学呼吸器外科	Pulmonary vessels and bronchial anatomy of the left lower lobe	Surg Today. 2020 Sep;50(9):1081-1090.	Original Article
84	Mikami T, Suzuki H, Ukai R et al.	脳神経外科	Flattening the curvature of synthetic materials to relieve scalp skin tension in cranioplasty.	J Clin Neurosci 61:196-200, 2019.	Original Article
85	Mikami T, Suzuki H, Komatsu K et al.	脳神経外科	Influence of Inflammatory Disease on the Pathophysiology of Moyamoya Disease and Quasi-moyamoya Disease.	Neurol Med Chir (Tokyo) 59:361-370, 2019.	Review
86	Enatsu R, Kitagawa M, Mikami T et al.	脳神経外科	A Case Report of Multitrack Recording of Posterior Subthalamic Nucleus, Caudal Zona Incerta, and Prelemniscal Radiation: Which is Most Effective for Bradykinesia?	NMC Case Rep J 6:91-93, 2019.	Case report
87	Toyama K, Wanibuchi M, Honma T et al.	脳神経外科	Effectiveness of intraoperative visual evoked potential in avoiding visual deterioration during endonasal transsphenoidal surgery for pituitary tumors.	Neurosurg Rev 43:177-183, 2020.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
88	Kimura Y, Mikami T, Miyata K et al.	脳神経外科	Vascular assessment after clipping surgery using four-dimensional CT angiography.	Neurosurg Rev 42:107-114, 2019.	Original Article
89	Suzuki Y, Enatsu R, Kanno A et al.	脳神経外科	The Influence of Anesthesia on Corticocortical Evoked Potential Monitoring Network Between Frontal and Temporoparietal Cortices.	World Neurosurg 123: e685-e692, 2019.	Original Article
90	Suzuki H, Mikuni N, Sugita S et al.	脳神経外科	Molecular aberrations associated with seizure control in diffuse astrocytic and oligodendroglial tumors.	Neurol Med Chir(Tokyo) 60:147-155, 2020.	Original Article
91	Sasagawa A, Enatsu R, Suzuki H et al.	脳神経外科	Misleading non-epileptic epileptiform activities on Intracranial recordings.	J Clin Neurosci 71: 158-163, 2020.	Original Article
92	Arihara M, Miyata K, Iihoshi S et al.	脳神経外科	Cerebral Ischemic Complications of Subclavian Artery Stenting: Relationship between Lesion Location and Procedural Strategy.	Journal of Neuroendovascular Therapy 13:403-410, 2019.	Case report
93	Takahashi Y, Wanibuchi M, Kimura Y et al.	脳神経外科	Meningioma Originating from the Hypoglossal Canal: Case Report and Review of Literature.	World Neurosurg 127:525-529, 2019.	Case report
94	Hirano T, Enatsu R, Iihoshi S et al.	脳神経外科	Effects of Hemosiderosis on Epilepsy Following Subarachnoid Hemorrhage.	Neurol Med Chir (Tokyo) 59: 27-32, 2019.	Original Article
95	Komura S, Akiyama Y, Suzuki H et al.	脳神経外科	Far-anterior Interhemispheric Transcallosal Approach for a Central Neurocytoma in the Lateral Ventricle.	Neurol Med Chir (Tokyo) 59:511-516, 2019.	Case report
96	Yamaoka A, Miyata K, Iihoshi S et al.	脳神経外科	Endovascular treatment of asymptomatic free-floating thrombus in the carotid artery bifurcation: a direct aspiration first-pass technique under double balloon protection.	BMJ Case Rep 12: e230295, 2019.	Case report
97	Saitoh T, Enatsu R, Kitagawa M et al.	脳神経外科	Choreo-ballistic movement after thalamotomy in a patient with Lewy body dementia.	J Clin Neurosci 66:246-266, 2019.	Case report
98	Tamada T, Mikami T, Komura S et al.	脳神経外科	Pseudoaneurysm presenting around polytetrafluoroethylene fiber following microvascular decompression: A case report and literature review.	J Clin Neurosci 63:231-234, 2019.	Case report
99	Tamada T, Enatsu R, Suzuki Y et al.	脳神経外科	Psychogenic Pseudo-responses in an Electrical Cortical Stimulation.	Neurol Med Chir (Tokyo) 59:287-290, 2019.	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
100	Tamada T, Wanibuchi M, Suzuki H et al.	脳神経外科	Total Resection of Unilateral Adult-onset Xanthogranuloma of the Orbit via a Transcranial Orbital Approach.	NMC Case Rep J 6:121-124, 2019.	Case report
101	Chiba R, Enatsu R, Ochi S et al.	脳神経外科	Intraoperative Monitoring for Vagus Nerve Stimulation.	World Neurosurg 131:191-193, 2019.	Original Article
102	Chiba R, Akiyama Y, Kimura Y et al.	脳神経外科	Diagnosis of a Rare Intraventricular Schwannoma: A Case Report.	World Neurosurg 134:145-149, 2020.	Case report
103	Nakayama C, Mikami T, Ukai R et al.	脳神経外科	Moyamoya disease with epileptic nystagmus: A case report.	J Clin Neurosci 70:251-254, 2019.	Case report
104	Fujioka M, Kato J, Sumikawa Y et al.	札幌医大皮膚科学講座	Cutaneous apocrine carcinoma with elevated serum cytokeratin 19 fragment 21-1 (CYFRA 21-1).	J Dermatol 46: 387-388, 2019.	case report
105	Handa T, Kamiya T, Sumikawa Y et al.	札幌医大皮膚科学講座	Decrease of anti-DSG3, but not anti-DSG1 antibody, after cessation of sitagliptin treatment in a patient with pemphigus vulgaris.	JAMA Dermatol 155: 391-393, 2019.	case report
106	Handa T, Kato J, Sumikawa Y et al.	札幌医大皮膚科学講座	Durable response after cessation of antiprogrammed death 1 therapy in four melanoma patients.	J Dermatol 46: e461-e462, 2019.	case report
107	Hida T, Okura M, Kobayashi K, et al.	札幌医大皮膚科学講座	Xeroderma pigmentosum group D: Report of a novel combination of ERCC2 variations and its phenotype.	J Dermatol 46: e81-e82, 2019	case report
108	Hida T, Okura M, Kamiya T et al.	札幌医大皮膚科学講座	A case of childhood-onset cutaneous mastocytosis with loss of wild-type KIT allele.	J Eur Acad Dermatol Venereol 33: e235-e237, 2019.	case report
109	Hosokawa Y, Kato J, Hida T, et al.	札幌医大皮膚科学講座	Docetaxel therapy for classic Kaposi's sarcoma.	Asia Pac J Clin Oncol 15: 181-182, 2019	case report
110	Kan Y, Uhara H, Kamiya S et al.	札幌医大皮膚科学講座	Eosinophilic fasciitis in a 2-year-old child treated with a combination of methotrexate and corticosteroids	J Dermatol 46: e474-e475, 2019	case report
111	Kato J, Hida T, Someya M et al.	札幌医大皮膚科学講座	Efficacy of combined radiotherapy and anti-programmed death 1 therapy in acral and mucosal melanoma	J Dermatol 46: 328-333, 2019.	Original article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
112	Kato J, Hida T, Horimoto K, et al.	札幌医大皮膚科学講座	Successful rechallenge with nivolumab therapy after radiotherapy in mucosal melanoma.	J Dermatol 46: e72-e73, 2019.	case report
113	Kato J, Horimoto K, Sato S, et al.	札幌医大皮膚科学講座	Dermoscopy of Melanoma and Non-melanoma Skin Cancers	Front. Med doi: 10.3389/fmed.2019.00180.(オンライン)	review
114	Yoshikawa M, Kamiya T, Sumikawa Y et al.	札幌医大皮膚科学講座	Unique dermoscopic feature of a long-standing pencil core granuloma on the head	J Dermatol 46: e172-e173, 2019.	case report
115	Uhara H	札幌医大皮膚科学講座	Recent advances in therapeutic strategies for unresectable or metastatic melanoma and real-world data in Japan	International journal of clinical oncology 24:1508-1514, 2019.	review
116	四ッ柳 高敏	札幌医科大学 形成外科	Establishment of a Standardized Technique for Concha-type Microtia—How to Incorporate the Cartilage Frame into the Remnant Ear	Plastic and Reconstructive Surgery - Global Open. 5 June 2019	Original Article
117	舛森 直哉	泌尿器科学講座 教授	Development of combined method for construction of continent urinary diversion: Studer neobladder	Int J Urol. 2019 Dec;26(12):1158-1160	Original Article
118	Takano K, Okuni T, Yamamoto K, et al.	札幌医科大学耳鼻咽喉科	Potential utility of core needle biopsy in the diagnosis of IgG4-related dacryoadenitis and sialadenitis.	Mod Rheumatol. 2019 Mar; 29: 393-396	Original Article
119	Kamekura R, Takahashi H, Ichimiya S.	札幌医科大学耳鼻咽喉科	New insights into IgG4-related disease - emerging new CD4+ T cell subsets.	Curr Opin Rheumatol. 2019 Jan; 31: 9-15	Review
120	Ogasawara N, Poposki JA, Klingler AI, et al.	札幌医科大学耳鼻咽喉科	Role of RANK-L as a potential inducer of ILC2-mediated type 2 inflammation in chronic rhinosinusitis with nasal polyps.	Mucosal Immunol. 2020 Jan; 13:86-95	Original Article
121	Ogasawara N, Poposki JA, Klingler AI, et al.	札幌医科大学耳鼻咽喉科	TNF induces the production of type 2 cytokines in human group 2 innate lymphoid cells.	J Allergy Clin Immunol. 2020 Jan;145:437-440	Original Article
122	Ito F, Kamekura R, Yamamoto M, et al.	札幌医科大学耳鼻咽喉科	IL-10+ T follicular regulatory cells are associated with the pathogenesis of IgG4-related disease.	Immunol Lett. 2019 Mar; 207:56-63	Original Article
123	Kaneko Y, Konno T, Kohno T, et al.	札幌医科大学耳鼻咽喉科	Induction of airway progenitor cells via p63 and KLF11 by Rho-kinase inhibitor Y27632 in hTERT-human nasal epithelial cells.	Am J Transl Res. 2019 Feb; 11:599-611	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
124	古瀬研吾	神経精神医学講座	Antidepressant activities of escitalopram and blonanserin on prenatal and adolescent combined stress-induced depression model: possible role of neurotrophic mechanism change in serum and nucleus accumbens	J Affect Dis, 2019, Mar	Original Article
125	Someya M, Hasegawa T, Tsuchiya T, et al.	放射線治療科	Retrospective DVH analysis of point A based intracavitary brachytherapy for uterine cervical cancer.	Journal of Radiation Research. 2020 Mar; 61(2): 265-274	Original Article
126	Gocho T, Hori M, Fukushima Y, et al.	放射線治療科	Evaluation of the urethral a/b ratio and tissue repair half-time for iodine-125 prostate brachytherapy with or without supplemental external beam radiotherapy.	Brachytherapy. 2020 May-Jun; 19(3): 290-297	Original Article
127	Onodera K, Hatakenaka M, Yama N	放射線診断学	Repeatability analysis of ADC histogram metrics of the uterus.	Acta Radiologica. 2019 Apr; 60(4); 526-534	Original Article
128	Hatakenaka M	放射線診断学	Spatial resolution of CT	Eur J Surg Oncol. 2019 Sep; 45(9):1748.	Others
129	Onodera M, Aratani K, Shonai T	放射線診断学	Lateral Position With Gantry Tilt Further Improves Computed Tomography Image Quality Reconstructed Using Single-Energy Metal Artifact Reduction Algorithm in the Oral Cavity	J Comput Assist Tomogr. Jul/Aug 2020; 44(4):553-558.	Original Article
130	Chaki T, Sugino S, Janicki PK, Ishioka Y, Hatakeyama Y, Hayase T, Kaneuchi-Yamashita M, Kohri N, Yamakage M	医学部 麻酔科学講座	Efficacy and safety of a lidocaine and ropivacaine mixture for scalp nerve block in patients undergoing awake craniotomy.	J Neurosurg Anesthesiol 2016; 28(1): 1-5.	Case report
131	Takahashi K, Sawada A, Iwasaki S, Yama N, Takashima H, Onodera M, Hatakenaka M, Yamakage M	医学部 麻酔科学講座	Three cases implantation of a SureScan® system and MRI for investigating causes of pain.	J Anesth 2017; 31(6): 915-7.	Case report
132	Tachibana S, Omote M, Yamakage M	医学部 麻酔科学講座	Successful awake craniotomy in an aged patient with a severe hearing impairment using a bone conduction voice amplifier	JA Clin Rep 2019; 5: 37.	Case report
133	Tachibana S, Tanaka S, Yamakage M	医学部 麻酔科学講座	Successful anesthetic management using dexmedetomidine sequentially with propofol in the asleep-awake-asleep technique for elderly patients undergoing awake craniotomy.	Anesthesiol 2020; doi.10.1155./2020/67953 63.	Case report
134	Hiroomi Tatsumi	Department of Intensive Care Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	Enteral tolerance in critically ill patients	J Intensive Care 7:30, 2019	Review
135	Satoshi Kazuma, Keiko Wakasugi, Hiroya Hagiwara, et al	Department of Intensive Care Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	Comparative Study of TOF-Cuff, a New Neuromuscular Blockade Monitor, and TOF-Watch, an Acceleromyography	Anesth Analg 129(1), e16-e19. 2019	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
136	Satoshi Kazuma, Yasuyuki Tokinaga, Motonobu Kimizuka, et al	Department of Intensive Care Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	Sevoflurane Promotes Regeneration of the Endothelial Glycocalyx by Upregulating Sialyltransferase	J Surg Res 241, 40-47, 2019	Original Article
137	Yuya Goto, Kansuke Koyama, Shinshu Katayama, et al	Department of Intensive Care Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	Influence of contrast media on renal function and outcomes in patients with sepsis-associated acute kidney injury: a propensity-matched cohort study	Crit Care 23(1), 249, 2019	Original Article
138	Hiroomi Tatsumi, Masayuki Akatsuka, Satoshi Kazuma, et al	Department of Intensive Care Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	Endoscopic insertion of nasojejunal feeding tube at bedside for critically ill patients - Relationship between the tube position and the intragastric countercurrent of contrast medium.	Ann Nutr Metab 75 (3), 163-167, 2019	Original Article
139	Ikuto Otsuki, Nobuaki Himuro, Hiroomi Tatsumi, et al	Department of Anesthesia, Otaru General Hospital	Individualized nutritional treatment for acute stroke patients with malnutrition risk improves functional independence measurement: a randomized controlled trial.	Geriatr Gerontol Int.20(3), 176-182, 2020	Original Article
140	Masayuki Akatsuka, Yoshiki Masuda, Hiroomi Tatsumi, et al	Department of Intensive Care Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	Recombinant human soluble thrombomodulin is associated with attenuation of sepsis-induced renal impairment by inhibition of extracellular histone release.	PLOS ONE 2020 Jan 23;15(1):e0228093. doi: 10.1371/journal.pone.0228093. eCollection 2020.	Original Article
141	Masayuki Akatsuka, Hiroomi Tatsumi, Naoya Yama, et al	Department of Intensive Care Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine	Therapeutic Evaluation of Computed Tomography Findings for Efficacy of Prone Ventilation in Acute Respiratory Distress Syndrome Patients with Abdominal Surgery.	J Crit Care Med 6(1), 32-40, 2020	Original Article
142	Murai R, Yamada K, Yonezawa H, et al.	検査部	Evaluation of new algorithm using TPLA as an initial syphilis screening test	J Infect Chemother 2019; 25(1): 68-70	Case report
143	Furuya D, Moriai M, Koizumi Y, et al.	検査部	Analysis of major BCR-ABL1 mRNA by digital polymerase chain reaction is useful for prediction of international scale	Int J Clin Oncol 2019; 24(7): 871-875	original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
144	Furuya D, Moriai M, Murai R, ,et al.	検査部	Chip-based digital PCR technology is useful for monitoring the JAK2 V617F allele burden in Philadelphia negative myeloproliferative neoplasms	Int J Lab Hematol 2019: 41(5): e113-e116	Letter
145	Saeki M, Sato T, Furuya D,,et al.	検査部	Clonality investigation of clinical Escherichia coli isolates by polymerase chain reaction-based open reading frame typing method	J Infect Chemother 2020: 26(1): 38-42	original Article

計145件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Tsuchiya T, Someya M, Takada Y, et al.	放射線治療科	Association between radiotherapy-induced alteration of programmed death ligand 1 and survival in patients with uterine cervical cancer undergoing preoperative radiotherapy.	Strahlenther Onkol. 2020 Aug; 196(8): 725-735	Original Article
2	Hasegawa T, Someya M, Hori M, et al.	放射線治療科	A Prediction of Results of Radiotherapy with Ku70 Expression and an Artificial Neural Network.	In Vivo. 2020 Sept-Oct; 34(5): 2865-2872	Original Article
3					
~					

計2件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

<ul style="list-style-type: none"> <li>後期研修・専門医制度プログラムは、専門医の取得を目指した研修です。そのため、志望する分野を専門とする診療科に所属し、基本的にその診療科を中心とする研修を受けていただきます。また、多くの学会の認定教育施設となっているため、複数の専門医資格を取得することも可能です。</li> <li>領域 内科、皮膚科、外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、麻酔科、小児科、精神科、整形外科、眼科、泌尿器科、放射線科、リハビリテーション科、救急科、形成外科、病理科、総合診療科</li> </ul> <p>※ 領域については、新専門医制度基本領域のみ。 (歯科口腔外科についても後期研修を行っています。)</p>
---

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	217人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
高橋 弘毅	内科	教授	38年	
宇原 久	皮膚科	教授	33年	
竹政 伊知朗	外科	教授	26年	
齋藤 豪	産婦人科	教授	33年	
高野 賢一	耳鼻咽喉科	教授	18年	
三國 信啓	脳神経外科	教授	30年	
山蔭 道明	麻酔科	教授	31年	
堀 司	小児科	准教授	26年	プログラム申請時に教授不在
河西 千秋	神経精神科	教授	30年	
山下 敏彦	整形外科	教授	36年	
大黒 浩	眼科	教授	35年	
舩森 直哉	泌尿器科	教授	31年	
畠中 正光	放射線科	教授	34年	
石合 純夫	リハビリテーション科	教授	36年	
成松 英智	救急	教授	32年	
四ツ柳 高敏	形成外科	教授	31年	
長谷川 匡	病理	教授	33年	
古橋 真人	総合診療科	講師	24年	プログラム申請時に教授不在

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。



(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	札幌医科大学附属病院病院長 土橋 和文
管理担当者氏名	総務課長 高梨 勝則/病院課長 奥野 良聡/医療連携福祉センター長 齋藤 豪/薬剤部長 福土 将秀/医療安全部長 舛森 直哉/感染制御部長 高橋 聡/医事経営管理部長 土橋 和文

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院課、各診療科、カルテ庫、各診療関係部科  病歴資料については、診療科毎に作成しカルテ庫で管理（一診療科一カルテ） エックス線写真については、各診療科とカルテ庫において保管管理診療録を病院外に持ち出すことは禁止している。	
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	各診療科	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	各診療科	
		高度の医療の研修の実績	病院課	
		閲覧実績	—	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携福祉センター	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事経営課及び薬剤部
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全部
医療に係る安全管理のための委員会の開催状況			医療安全部	
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況			医療安全部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
	第二条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
	第三号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第四号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	第五号	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
	第六号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第七号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第八号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第九号	医療機器安全管理責任者の配置状況	医事経営課
	第十号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医事経営課
	第十一号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医事経営課
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医事経営課

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事経営課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	病院課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	病院課
		監査委員会の設置状況	病院課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療連携福祉センター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全部
		職員研修の実施状況	各関係部科
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	各関係部科
管理者が有する権限に関する状況	総務課 医事経営課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	経営企画課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	経営企画課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

2 (様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	北海道公立大学法人札幌医科大学 理事長 塚本 泰司		
閲覧担当者氏名	北海道公立大学法人札幌医科大学事務局総務課長 高梨 勝則		
閲覧の求めに応じる場所	北海道公立大学法人札幌医科大学事務局総務課		
閲覧の手続の概要 ・ 開示（閲覧）請求の受付 ・ 開示（閲覧）について内部決定 ・ 指定した日時・場所において担当職員立会のもと開示（閲覧）			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>「札幌医科大学附属病院における安全管理指針」          本院における医療安全管理に関する基本方針を定めるとともに、院内の責任体制を明確にし、医療安全管理の具体的な推進方策について下記の10項目を規定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 総則</li> <li>2 医療安全管理のための体制</li> <li>3 医療事故等に関する報告制度</li> <li>4 医療の安全確保を目的とした改善のための方策</li> <li>5 安全管理のための教職員研修の実施</li> <li>6 医療事故発生時の対応方法</li> <li>7 患者相談窓口の設置</li> <li>8 その他医療安全の推進のために必要な基本方針等</li> <li>9 本指針の閲覧</li> <li>10 附則</li> </ol> <p>○H30.4.1改正          医療法施行規則の改正に伴い、医療安全部の役割として、従業者の「医療安全に係る意識向上の状況確認」を追加。</p> <p>○H31.4.1改正          医療安全管理責任者ほか各種管理責任者の任命について明示するとともに、医療安全部の構成及び医療安全管理者（GRM）の業務内容について根拠法令の文言に基づき追加・修正。</p> <p>○R2.4.1改正          医療安全管理者（GRM）は医療安全部副部長の中から病院長が任命することを明記するとともに、医療安全管理者の配置に関する文言を修正。</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>設置の有無（ 有 ）</p> <p>・ 開催状況： 下記のとおり</p> <p>・ 活動の主な内容： 下記のとおり</p> <p>○医療事故防止対策委員会 （定例） 年12回          医療事故等の発生原因の分析・再発防止策の検討及び指導等          * 検討結果は、院内へ周知徹底を図っている。</p> <p>○安全対策委員会 （定例） 年12回          医療事故防止対策委員会から諮問された事項に係る具体的内容の検討、院内巡回による指導及び措置状況の確認、医療安全対策マニュアルの改訂等</p> <p>○リスクマネージャー連絡会議 （定例） 年6回          院内で発生したインシデント・アクシデントや医療安全に係る情報の周知、上記委員会等で決定した安全対策の自部署へのフィードバック等</p> <p>○医療クオリティ審議委員会 （随時） 令和元年度実績：3回          本院において発生した医療事故等に係る事実関係等の調査、その他必要な処置等</p>	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年23回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）：  医療安全講演会（2回）、トピックス研修会（5回）、  感染対策講習会（2回）、AST講習会（2回）、  医療機器安全管理研修会（2回）、  医薬品・医療機器安全管理研修会（1回）、  院内BLS/AED講習会（5回）、ICLS講習会（1回）、  PICCハンズオントレーニング（2回）、  多職種コミュニケーション研修（1回）</li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「札幌医科大学附属病院における安全管理指針」において、医療事故等の区分を6段階にレベル分けして内容を整備し、院内報告の仕方や取扱いを明らかにするとともに、再発防止策の検討方法を規定している。また、死亡例全例の医療安全部への報告体制についても規定している。</li> <li>○ 各部署において「医療安全確保のための業務改善計画書」を作成し、下記の項目について取り組みを行った。各部署における実施状況は、医療事故防止対策委員会が全部署を巡回し、評価を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 診療部門 <ul style="list-style-type: none"> <li>① インフォームド・コンセントの適正な診療録への記載</li> <li>② 患者誤認防止対策</li> </ul> </li> <li>・ 看護部門 <ul style="list-style-type: none"> <li>① インフォームド・コンセント後の患者・家族の反応とケアの記録</li> <li>② 患者誤認防止対策</li> </ul> </li> <li>・ 中央部門及び事務部門 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 患者誤認防止対策または自部署で考える院内安全対策</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○ 安全対策委員会において、医療安全対策マニュアルの実施状況調査として、周術期における手術部位誤認防止の実施状況調査、侵襲的な検査処置での患者誤認防止及び外来での検査・処置・治療の患者誤認防止に係る院内巡回を行った。また、病棟部門においては、「リスクマネージャーによる病棟相互の医療安全ラウンド」として、患者確認方法、マニュアル周知方法、職員教育等、安全及び5Sの視点でスタッフの実践状況を確認した。</li> <li>○ 医療安全対策に関して医療関係者の意識の向上と組織的な取組を図る目的で医療安全推進週間を設定し、「医療安全講演会」・「PICCカテーテルハンズオントレーニング～安全なエコー下手技～」・「World Caféで体感する多職種コミュニケーション」・「医療安全大賞」の企画を実施した。</li> <li>○ 医療安全マニュアル第7版の改訂し、令和2年度から使用している。</li> </ul> </li> </ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<p>・ 指針の主な内容：                  札幌医科大学附属病院院内感染対策指針                  札幌医科大学附属病院における院内感染対策に関する基本事項について、規程したものである。                  院内感染対策についての意識の向上に資するものである。</p> <p>1. 院内感染対策に関する基本的考え方                  2. 院内感染対策のための管理体制・組織                  3. 院内感染対策のための職員研修                  4. 感染症の発生状況の報告                  5. 院内感染発生時の対応                  6. 患者等に対する本指針の閲覧                  7. その他の院内感染対策の推進</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：                  ・ 院内における感染情報の周知及び分析                  ・ 感染防止の対応報告及び検討・原因究明                  ・ 抗菌薬使用状況                  ・ その他院内感染対策に関する事項</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年15回
<p>・ 研修の内容（すべて）：                  ・ 病院感染対策講習会（AST含む） 2回：全職員を対象とする                  ・ AST講習会 1回：医師・看護師・臨床検査技師・薬剤師を対象とする                  ・ 清掃委託業者における院内感染対策講習会 1回：清掃委託業者全員を対象とする                  ・ 研修医への講義 1回：新規採用研修医を対象とする                  ・ 新規採用看護師への抗議 1回：新規採用された看護師全員を対象とする                  ・ 中途採用者への講義 9回：年度途中の異動および採用された職員全員を対象とする</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （<input checked="" type="checkbox"/>・無）                  ・ 「感染症発症連絡票」を用いて、患者や職員の感染症発生に関する報告を受けている                  ・ 検査部（最近検査）からの報告を、感染対策ソフトも用いて院内の菌やウイルスの検出状況を把握し、必要に応じて各部署の責任者などへ詳細報告を求めている</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：                  ・ 感染制御チームを設置し、院内感染の状況、抗菌薬適正使用、診断に必要な検体採取状況、職員の感染対策実施の状況などを把握し、適宜介入を行っている                  ・ 感染制御チームによる病棟ラウンドを実施し、臨床現場の現状把握や改善内容の提案をしている</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年9回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：</li> <li>・ 新規採用看護職員研修（薬剤部の機能と役割） H31.4.2 新規採用看護職員 55名</li> <li>・ 臨床研修医オリエンテーション（医薬品の適正処方と適正使用） H31.4.3 研修医 33名</li> <li>・ トピックス研修（医薬品の安全管理体制）計2回 H31.4.11 4.18 全職員対象(e-learningを含め) 379名</li> <li>・ 新人看護職員「他部門研修」（薬剤部の機能と役割）計4回 R1.9.13 10.2 10.10 10.17 新人看護職員 20名</li> <li>・ 医薬品・医療機器安全管理研修会（最近の事例とその対策） R1.9.19 全職員対象(DVD、e-learningを含め) 1452名</li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (有)</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</li> <li>(1) 医薬品の採用購入 <ul style="list-style-type: none"> <li>I 採用</li> <li>II 購入</li> </ul> </li> <li>(2) 医薬品の管理方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>I 薬剤部での保管管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 調剤室</li> <li>2. 薬品管理室</li> <li>3. 製剤室</li> <li>4. 麻薬管理室</li> </ul> </li> <li>II 病棟、外来部門等での医薬品の保管管理</li> <li>III 医薬品の保管・管理チェック</li> <li>IV 記録・保存</li> </ul> </li> <li>(3) 投薬指示・調剤 <ul style="list-style-type: none"> <li>I 投薬指示</li> <li>II 調剤</li> </ul> </li> <li>(4) 患者への与薬や服薬指導</li> <li>(5) 医薬品の安全使用に係る情報の取扱い <ul style="list-style-type: none"> <li>I 医薬品情報の収集</li> <li>II 医薬品情報の提供</li> </ul> </li> <li>(6) 他施設との連携</li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)</li> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)：</li> <li>【未承認(院内製剤)】</li> <li>・ ランパート・イートン症候群の治療薬としての院内製剤1%ジアミノピリジン散投与</li> <li>【適応外】抜粋</li> <li>・ プロポフォールを用いた消化器内視鏡時の鎮静</li> <li>・ 重症筋無力症(MG)の眼瞼下垂に対するナファゾリン点眼薬投与</li> <li>・ NUT midline carcinomaに対するVDC-IE 交替療法</li> <li>・ 難治性多発性硬化症に対するリツキシマブ投与</li> <li>・ 難治性潰瘍性大腸炎に対するウステキヌマブ投与</li> <li>・ 進行性多巣性白質脳症(PML)に対するメフロキン投与</li> <li>・ 高インスリン性低血糖症に対しオクトレオチド、グルカゴン、ニフェジピンの使用</li> </ul>	



- ・新型コロナウイルス（COVID-19）関連肺炎に対するリトナビルとロピナビルの併用療法
- ・新型コロナウイルス（COVID-19）関連肺炎に対するファビピラビル療法
- ・新型コロナウイルス（COVID-19）関連肺炎に対するシクレソニド吸入療法

・ その他の改善のための方策の主な内容：

【医薬品に関する情報の整理・収集】

・ 指名した薬剤師が収集・整理した情報（DSU、医薬品・医療機器等安全性情報、イエロー・ブルーレターやPMDA、m3.com、製薬企業等から得た情報）は、必要に応じてメール配信や紙媒体等で周知するよう指示しており、病棟においては情報が確実に周知されているか病棟担当薬剤師に確認させている。

【院内での副作用発生事例の収集方法】

・ 毎月発行のDrug Newsの紙面に「医薬品により副作用等の健康被害が発生した場合には薬剤部薬品情報室にお知らせください」のメッセージを表記し呼びかけている。  
・ 病棟薬剤師などから副作用発生情報を収集（病棟薬剤師と医薬品情報室との情報共有会等を通じて報告を促している）。  
・ メーカーに当院から副作用報告があった場合にMRを通じて発生情報を収集。

【改善のための方策実施状況】

・ 毎週1回、30分程度、医療安全部専従薬剤師と共に、医薬品関連のインシデント報告を共有し、安全対策を要する案件について検討している。  
・ 注射薬の適正使用の一環として、添付文書に点滴速度、ショック、血管外漏出、フィルター使用の有無の記載がある場合、注射薬袋に「注意・観察事項」として該当項目が表示されるよう設定しているが、この情報がベッドサイドでも確認できるよう、注射ラベルにも表示されるよう設定した。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有		
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年46回		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：人工心肺装置（4回）  補助循環装置（9回）  人工呼吸器（18回）  血液浄化装置（8回）  除細動器（2回）  閉鎖式保育器（2回）  診療用高エネルギー放射線発生装置及び診療用放射線照射装置（3回）</li> </ul>			
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 （有）</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>指定機器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人工心肺装置及び補助循環装置 13件</li> <li>・ 人工呼吸器 58件</li> <li>・ 血液浄化装置 13件</li> <li>・ 除細動器（AED除く） 17件</li> <li>・ 閉鎖式保育器 13件</li> <li>・ 診療用高エネルギー放射線発生装置 3件</li> <li>・ 診療用放射線照射装置 1件</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>指定機器以外</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅療法賃貸借医療機器 37件</li> <li>・ その他（在宅除く） 28件</li> </ul> </td> </tr> </table> </li> </ul>		<p>指定機器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人工心肺装置及び補助循環装置 13件</li> <li>・ 人工呼吸器 58件</li> <li>・ 血液浄化装置 13件</li> <li>・ 除細動器（AED除く） 17件</li> <li>・ 閉鎖式保育器 13件</li> <li>・ 診療用高エネルギー放射線発生装置 3件</li> <li>・ 診療用放射線照射装置 1件</li> </ul>	<p>指定機器以外</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅療法賃貸借医療機器 37件</li> <li>・ その他（在宅除く） 28件</li> </ul>
<p>指定機器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人工心肺装置及び補助循環装置 13件</li> <li>・ 人工呼吸器 58件</li> <li>・ 血液浄化装置 13件</li> <li>・ 除細動器（AED除く） 17件</li> <li>・ 閉鎖式保育器 13件</li> <li>・ 診療用高エネルギー放射線発生装置 3件</li> <li>・ 診療用放射線照射装置 1件</li> </ul>	<p>指定機器以外</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅療法賃貸借医療機器 37件</li> <li>・ その他（在宅除く） 28件</li> </ul>		
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有）</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし</li>   <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>「医療機器安全対策実施要領」に基づき対応している。</p> </li> </ul>			

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有
<p>・責任者の資格（医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>○ 医療安全管理責任者（副院長・医師）は、医療安全部長として当院における医療安全の総括的な責任を負うとともに、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者、委員長として医療事故防止対策委員会を統括する。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（4名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>・医薬品安全管理責任者が指名した薬剤師が指名した薬剤師が収集・整理した情報（DSU、医薬品・医療機器等安全性情報、イエロー・ブルーレターやPMDA、m3.com、製薬企業等から得た情報）は、必要に応じてメール配信や紙媒体等で周知するよう指示しており、病棟においては情報が確実に周知されているか病棟担当薬剤師に確認させている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>・未承認医薬品等を使用する場合は、本院未承認医薬品用管理室が未承認医薬品等調査検討部会から使用の適否に関する意見を踏まえたうえで決定している。</p> <p>・未承認等の医薬品（未承認医薬品、適応外、禁忌）についてはその使用状況等を毎月担当薬剤師から報告を受けており、必要に応じて医薬品の適正使用のための注意喚起情報を周知することとしている。</p> <p>・担当者の指名の有無（有）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部，職種 薬剤師 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （有）</p>	

- ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容
  - 医療安全部においてインフォームド・コンセントの診療録への記載内容について確認と評価を行っている。また、記載内容が乏しい診療科へは、具体的な記載方法を例にあげ指導を行っている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</li> </ul> <p>診療録の量的・質的監査の施行。 診療録管理委員会で結果の分析、フィードバック。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属職員：専従（ 5 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 4 ）名           <ul style="list-style-type: none"> <li>うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 2 ）名</li> <li>うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 0 ）名</li> <li>うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 0 ）名</li> </ul> </li> <li>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</li> <li>・活動の主な内容：           <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 医療の安全を確保するための改善方策に関すること</li> <li>○ 医療安全管理のための教職員の教育と啓発に関すること</li> <li>○ 医療事故発生時の対応に関すること</li> <li>○ 医療事故防止対策委員会等の円滑な運営及び連携に関すること</li> <li>○ 高難度新規医療技術に関すること</li> <li>○ 未承認新規医薬品等を用いた医療に関すること</li> <li>○ 医療安全管理に関する院内の連絡調整</li> <li>○ その他の医療安全管理に関する庶務</li> </ul> </li> <li>※ 従事者の医療安全の認識に関するモニタリングの具体例           <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 医療安全に係る研修会毎に実施するアンケートにより、認識や理解度の把握に努めている。今後、e-learning システムの機能を活用して、院内職員の医療安全の認識や理解度を更に高めるための方策を検討予定である。</li> </ul> </li> </ul>	

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。  
※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（7件）、及び許可件数（7件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・ 活動の主な内容：
  - 高難度新規医療技術を用いた医療の提供に係る取扱要綱に則り、高難度新規医療技術管理室が各診療科からの申請を受け付け、臨床倫理委員会（高難度新規医療技術調査検討部会）へ審査・意見を求める。高難度新規医療技術管理室は臨床倫理委員会の意見を踏まえて、提供の適否、実施を認める場合の条件等について決定し、結果を各診療科へ通知するとともに、病院長への報告も行う。
  - 実施後、高難度新規医療技術管理室は各診療科から高難度新規医療技術を用いた医療を提供した全ての症例について報告を受け、医療安全部又は臨床倫理委員会（高難度新規医療技術調査検討部会）において手術記録、診療録等の記載内容を確認し、その内容を病院長へ報告する。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（46件）、及び許可件数（46件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・ 活動の主な内容：
  - 未承認医薬品等を用いた医療の提供に係る取扱要綱に則り、未承認医薬品等管理室が各診療科からの申請を受け付け、臨床倫理委員会（未承認医薬品等調査検討部会）へ審査・意見を求める。未承認医薬品等管理室は臨床倫理委員会の意見を踏まえて、提供の適否、実施を認める場合の条

件等について決定し、結果を各診療科へ通知するとともに、病院長への報告も行う。

- 実施後、医療安全部は各診療科から未承認医薬品等を用いた医療を提供した全ての症例について報告を受け、未承認医薬品等管理室は臨床倫理委員会（未承認医薬品等調査検討部会）において診療録等の記載内容を確認し、その結果を病院長へ報告する。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有）

#### ⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 695 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 132 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
  - 医療事故を防止し、安全な医療を提供する環境を整えることを目的として、以下の事項について調査・審議を行っている。
    - ・ 情報の収集及び提供
    - ・ 発生原因の分析並びに発生防止のための具体的方策の立案及び実施
    - ・ 発生防止に係る診療科等での措置状況の確認及び必要に応じた方策の見直し
    - ・ 発生防止に係る方策の周知及び教育
    - ・ その他医療事故の発生防止に係る事項
  - 入院患者の死亡事案について、医療安全部で実施したモニタリング結果を、医療事故防止対策委員会で報告している。

#### ⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：滋賀医科大学附属病院））
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：佐賀大学附属病院））
- ・ 技術的助言の実施状況
  - 入院時支援体制に関しては、現状の看護師のみでの対応では面談時間や持参薬の中止判断などの負担が大きいと考えられる。今後対象とする診療科を拡大するためには、薬剤師や事務職員の関わりが望まれるとの助言を受け、現在、組織構成について検討している。

#### ⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

- 患者相談窓口を医療連携福祉センターに設置し、患者・家族等からの相談に応じる。また、状況に応じて、医療安全に関する相談には医療安全管理者等が対応する。なお、安全対策が必要な場合は、医療事故防止対策委員会において協議し対応する。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

- H31. 4. 11、4. 18 トピックス研修会「当院の医療安全体制について」「院内感染について」「医薬品の取り扱いについて」
- R1. 5. 15、5. 21 トピックス研修会「当院の医療安全の現状について」
- R1. 5. 27 感染対策講習会「最近話題になった感染症～流行性ウイルス感染症・ダニ媒介性感染症・輸入感染症～」
- R1. 6. 3 PICC カテーテルハンズオントレーニング
- R1. 6. 18 医療安全講演会「データに基づいたダブルチェックの方法～あなたのダブルチェックは大丈夫?～」
- R1. 7. 18、7. 23 トピックス研修会「STROKE CALL の現状と課題」
- R1. 7. 26 院内 BLS/AED 講習会
- R1. 8. 19 院内 BLS/AED 講習会
- R1. 8. 26 AST 講習会「病院で行うべき効果的な抗菌薬適正使用とは」
- R1. 9. 10 院内 BLS/AED 講習会
- R1. 9. 19 医薬品医療機器安全講演会「医薬品・医療機器の安全管理～最近の事例とその対策～」
- R1. 9. 30 医療機器安全管理研修会「除細動器及び酸素治療機器（酸素ポンプ・流量計等）の安全な使用について」
- R1. 10. 9 院内 BLS/AED 講習会
- R1. 10. 29 感染対策講習会/AST 講習会「当院の感染対策などについてのお知らせ、抗菌薬適正使用の諸問題」
- R1. 11. 5、11. 8 トピックス研修会「医療者がモンスターペイシェントをつくらないために」
- R1. 11. 15 院内 BLS/AED 講習会
- R1. 12. 2 PICC カテーテルハンズオントレーニング
- R1. 12. 3 医療安全講演会「元刑事が実例で教える対応の基本」
- R1. 12. 5 「World Cafe で体感する多職種コミュニケーション」
- R1. 12. 17 ICLS 講習会
- R2. 1. 22 医療機器安全管理研修会「除細動器・生体情報モニタ、酸素治療機器（酸素ポンプ・流量計等）の安全な使用について」
- R2. 2. 4、2. 13 トピックス研修会「多職種で協働しよう！放射線検査時の確認・留意事項」

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修

の実施状況

・研修の実施状況

○管理者：

日本医療評価機構 特定機能病院管理者養成講習会出席 (R2. 2. 12)

○医療安全管理責任者：

日本医療評価機構 特定機能病院管理者養成講習会出席 (R2. 1. 7)

○医薬品安全管理責任者：

日本医療評価機構 特定機能病院管理者養成講習会出席 (R1. 12. 16)

○医療機器安全管理責任者：

日本医療評価機構 特定機能病院管理者養成講習会出席 (R2. 1. 7)

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)



規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容</li> <li>(1) 本学内外を問わず、医師免許を有する者</li> <li>(2) 医療安全管理業務の経験、患者の安全を第一に考える姿勢及び指導力等を有する者</li> <li>(3) 病院での組織管理経験及び高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質及び能力を有する者</li> <li>(4) 本学附属病院の理念及び基本方針に基づいた病院運営を行う能力を有する者</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</li> <li>・ 公表の方法 選考基準については、選考期間中に大学ホームページに掲載している。</li> </ul>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） ※経歴については公表していない</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</li> <li>・ 公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学ホームページによる公表</li> <li>・ 記者クラブへの発表</li> </ul> </li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
近江秀彦	札医大理事	○	学長が指名する理事	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
三浦哲嗣	札医大医学部長		職指定	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
大日向輝美	札医大保健医療学部長		職指定	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
齋藤 豪	札医大附属病副院長		学長が指定する副院長	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
萩原直美	札医大附属病副院長		学長が指定する副院長	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
舩森直哉	札医大医学部教授		教授会から選出	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
齋藤重幸	札医大保健医療学部教授		教授会から選出	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
太田三夫	弁護士 太田・遠藤法律事務所		法務・コンプライアンスに関する高い見識を有している	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
竹内徳男	北海道保健福祉部技監		長く北海道の保健・医療・福祉に携わり、豊富な知見を有している	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
佐藤孝紀	室蘭工業大学副学長		大学の教育研究に関し、広くかつ高い見識を有している	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合議体の主要な審議内容            附属病院における医育、診療、看護、施設及び経営等</li> <li>・ 審議の概要の従業者への周知状況            審議事項については必要に応じて院内ホームページ等で周知</li> <li>・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/>・無 )</li> <li>・ 公表の方法            学内ホームページにて掲載</li> <li>・ 外部有識者からの意見聴取の有無 ( <input checked="" type="checkbox"/>・無 )</li> </ul>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
土橋 和文	○	医療職	病院長
渡辺 敦		医療職	副院長
齋藤 豪		医療職	副院長
工藤 美幸		医療職	副院長
舛森 直哉		医療職	副院長
福土 将秀		医療職	病院長補佐
坂田 耕一		医療職	病院長補佐
三國 信啓		医療職	病院長補佐
仲瀬 裕志		医療職	病院長補佐
高橋 聡		医療職	病院長補佐
成松 英智		医療職	病院長補佐
辻 喜久		医療職	病院長補佐
太田 久晶		医療職	病院長補佐
近江 秀彦		役員	理事
船橋 雅史		事務職	事務局長
市川 晶一		事務職	病院事務長

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・）
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容  
事務決裁規程により、診療医の任免、許認可の申請、医療費の減免、診療契約等について、附属病院における部局長の専決事項を定めている。  
また、教員兼務規程により、附属病院の部長等を決定する際、学長への推薦権を有している。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

病院長補佐：病院長の任命により、附属病院の管理・運営に関する特命事項を所掌。  
令和2年度10月現在7名。

（薬剤部長、放射線部長、手術部長、医療材料部長、感染制御部長、  
臨床研修・医師キャリア支援センター長、保健医療学教授）

※別添組織図のとおり

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

#### 【人事の状況】

副院長、各中央部門の長、診療科長については、病院長が推薦し、学長が決定している。

#### 【研修の状況】

本学と包括連携協定を締結している小樽商科大学のビジネススクール「地域医療マネジメントセミナー」について、限られた人数ではあるが、受講する機会を設けている。

例年、病院のマネジメントに特化した研修は行っていないが、計画的かつ継続的に日常の業務の実践を通じた職場内研修（OJT）を実施することにより、業務の遂行能力を高めるよう努めている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>医療安全体制、医療安全管理委員会、特定機能病院の承認要件に係る対応状況、医療安全部の業務等について、中立かつ客観的な立場から監査を行い、必要に応じて医療安全管理についての是正措置を講ずるよう理事長又は病院長へ意見を表明する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（有）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（有）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>附属病院 HP にて好評している。</p>	
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）	

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
橋場 弘之	田村・橋場法律事務所	○	法律に関する識見を有するもの	無	1
南須原 康行	北海道大学附属病院		医療安全に係る安全管理に係る識見をもつもの	無	1
高田 久	北海道信用保証協会		医療を受ける立場から意見を述べることができるもの	無	2
元村 啓司	元 トーアエイヨー(株)		医療を受ける立場から意見を述べるすることができるもの	無	2
小林 宣道	札幌医科大学		学内委員	有	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容  
役員会は、理事長、副理事長、及び理事をもって構成し、予算の作成及び執行並びに決算に関する事項など重要事項について審議を行うほか、附属病院の経営状況についてほぼ毎月協議をおこなっている
  
- ・ 専門部署の設置の有無 ( 有 )
- ・ 内部規程の整備の有無 ( 有 )
- ・ 内部規程の公表の有無 ( 無 )
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況            役員会は、理事長、副理事長及び理事をもって構成し、予算の作成及び執行並びに決算に関する事項など重要事項について審議を行うほか、附属病院の経営状況についてほぼ毎月協議を行っている</li>   <li>・ 会議体の実施状況（ 年12回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ 有 ）（ 年12回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 無 ）</li> <li>・ 公表の方法</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の  
情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有）</li><li>・ 通報件数（年 件）</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（有）</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有）</li><li>・ 周知の方法 札幌医科大学ホームページに公益通報窓口の案内を掲載 医療安全対策マニュアルに掲載し、当該マニュアルを病院職員に配布している</li></ul>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 機関：公益財団法人 日本医療機能評価機構 時期：令和2年3月	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 情報発信の方法：広報誌、ウェブサイト等 内容等の概要：本院の役割や診療機能、医療技術等	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 緩和ケア診療、女性外来、GIDクリニック、プレストセンター、能機能センター、心臓血管センター、スポーツ医学センター、腫瘍診療センター、臨床遺伝センター等	



